

特定非営利活動法人
日本ジオパークネットワーク
理事長 古川 隆三郎 様

認知度調査 不満抽出・周遊状況調査 報告書

2023年2月28日
一般社団法人地域経営推進センター
代表理事 中村 健
青木 佑一

目次

| | |
|------------------------------|----|
| 認知度調査/不満抽出・周遊状況調査 2022 | 2 |
| I. 調査の目的 | 2 |
| II. 認知度調査 2022 の概要 | 2 |
| III. 認知度調査 2022 の分析 | 4 |
| IV. 不満抽出調査 2022 の概要 | 9 |
| V. 不満抽出調査 2022 の分析 | 11 |
| VI. 周遊状況調査 2022 の概要 | 15 |
| VII. 周遊状況調査 2022 の分析 | 17 |
| VIII. 考察 | 40 |
| IX. 全体総括 | 44 |

認知度調査/不満抽出・周遊状況調査 2022

I. 調査の目的

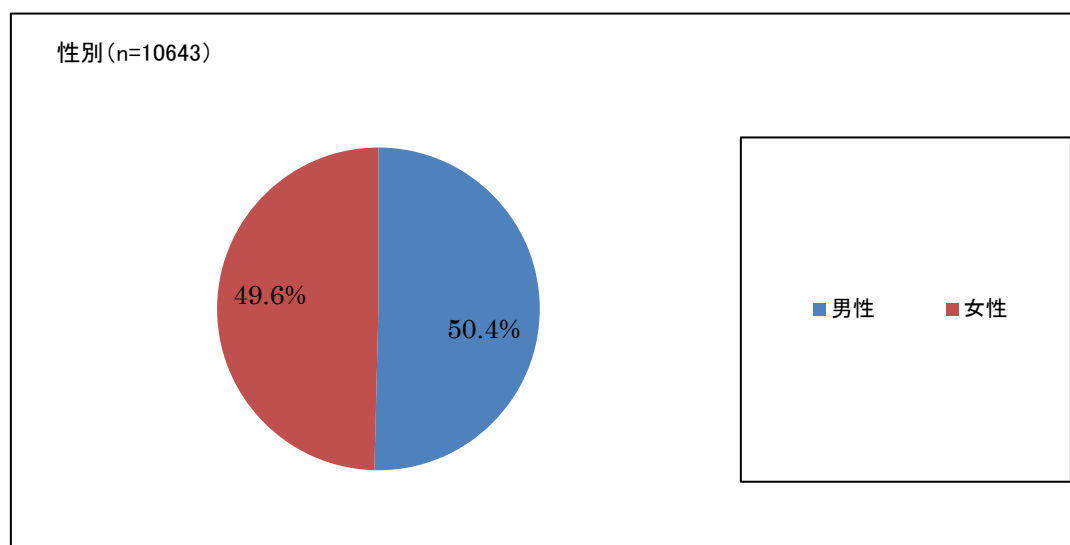
「ジオパーク活動が、ジオパーク所在の地域住民やそれ以外に住む一般市民にどの程度認知されているのか」などの把握のため、インターネットを使ったアンケート調査を実施して現状把握し、訪問者がもつ不満点の抽出と改善につなげる。

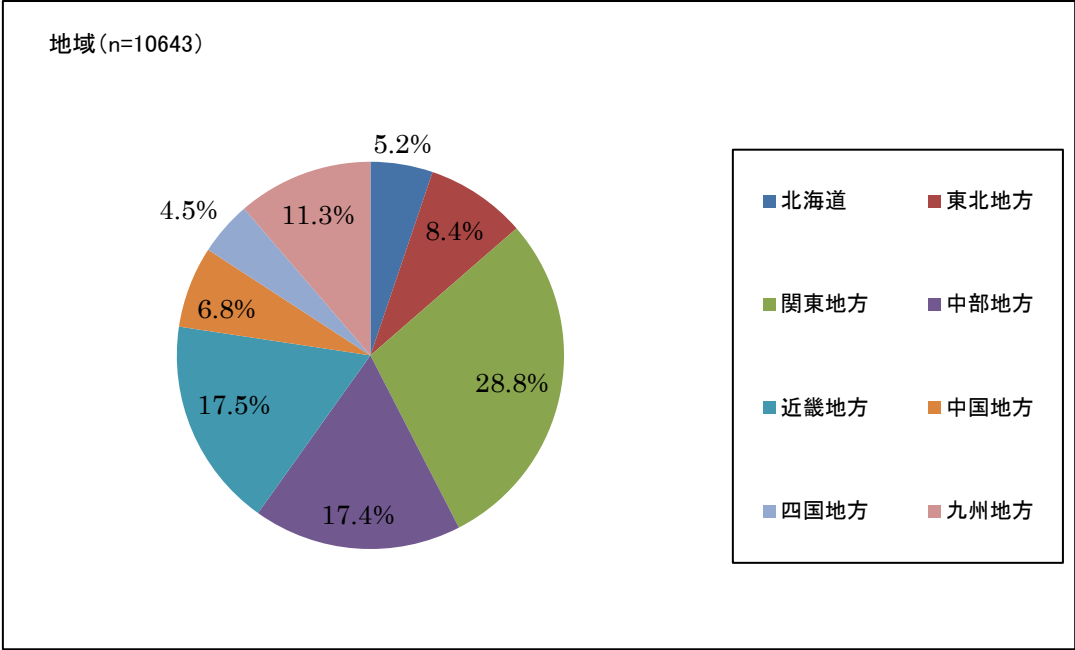
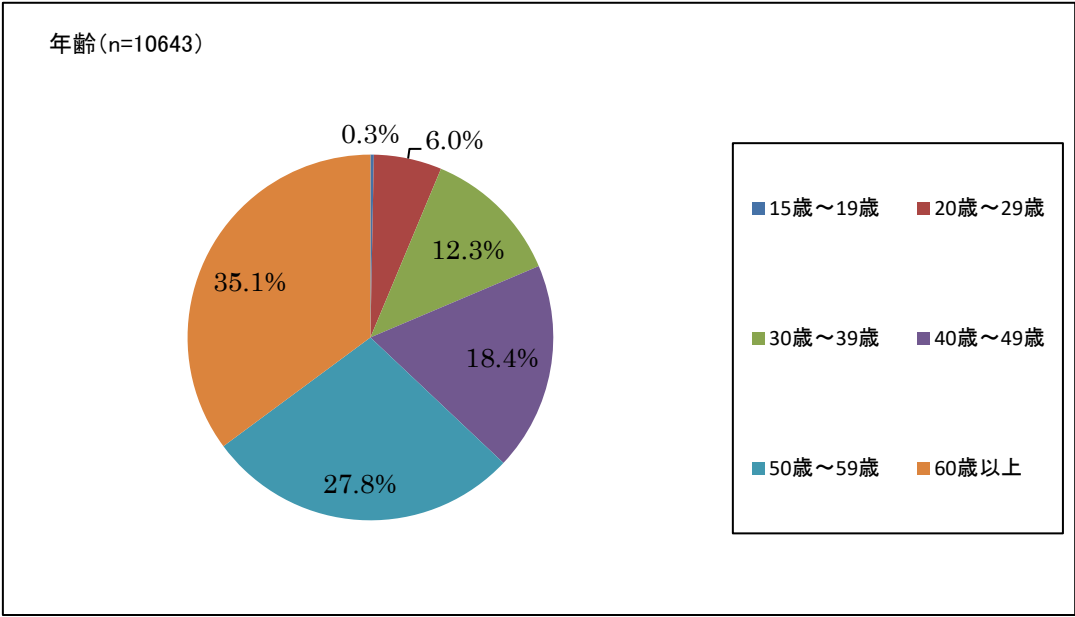
本調査では、「ジオパークは認知されているか」、「訪問して感じた改善点や不満はあるのか」「ジオパーク間の周遊を促すにはなにが必要か」を検討課題として設定し、「ジオパーク」自体の認知度と訪問しての満足・不満の状況、さらに改善点と不満の抽出につながる意識を調査・分析を行う。さらに、現時点でジオパーク間の周遊が行われているか状況を確認し、ジオパーク訪問者が複数ジオパークを周遊するために必要なことを考察する。

II. 認知度調査 2022 の概要

| | |
|-----------|-----------------------------------------------|
| ■ 調査名 | ジオパーク認知度調査 2022 |
| ■ 調査方法 | インターネット調査 |
| ■ 実施期間 | 2023 年 01 月 20 日～24 日 |
| ■ 調査対象 | 全国の男女 18 歳以上 ※各都道府県で 100 回答以上を回収できるよう割り付け。 |
| ■ 全回答数 | 11,003 回答 |
| ■ 有効サンプル数 | 10,643 回答 |

▽回答者属性





■回答者属性の特徴と留意点

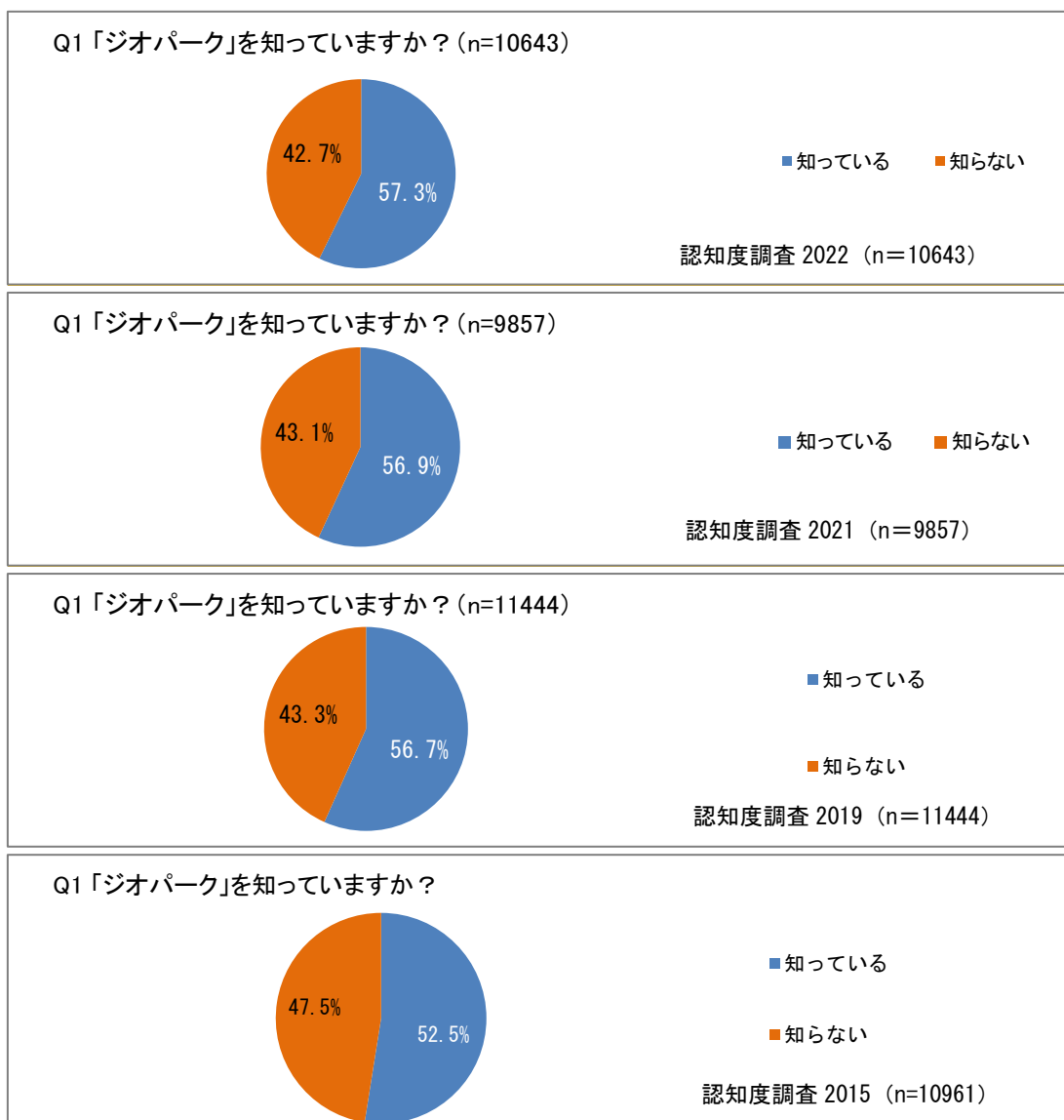
男女比は、調査時に割り付けをしたためほぼ同率。

年代ごとの回答数は、60代以上が35.1%と割合が多く、50代は27.8%、40代は18.4%だった。なお、各都道府県で100回答程度を集めることを重視して割り付けをしたため、年代の割合は実際の人口比とは異なる。

地域ごとの回答は、都市圏が多いが、人口比でみると北海道が少ない。なお、男女とも10代(18～19歳)は回答数が少なく参考値としている。

III. 認知度調査 2022 の分析

[1] 全国の認知度 (n=10643) ※過去の結果は 2015 年、2019 年、2021 年を表示



■回答の特徴

およそ 1 万人に「ジオパークを知っていますか？」と調査した結果、ジオパークを「知っている」と回答したのは、前回と比べ 0.4 ポイント増の 57.3%だった。

クロス分析として性別・年代別の結果をみると、年齢が高ければジオパークの認知度が高いなど例年通りの傾向が見られた。男女でいうと、男性のほうが認知度は高く、40 代以上では半数を超え、60 歳以上では 7 割を超える。女性は、50 代以上で 5 割を超えた。

また、地域別でクロス集計をすると、地域的な傾向はほぼ前年度と変わらず、四国地方と中国地方、東北地方、北海道、九州地方、中部地方の順で高かった。一方、都市圏の近畿地方と関東地方はやや認知度が低い傾向がある。前年、関東地方は「知っている」と「知らない」が拮抗していたが、今回は「知っている」の割合が高かった。

クロス分析：性年代×認知度／地域×認知度

Q1 「ジオパーク」を知っていますか？

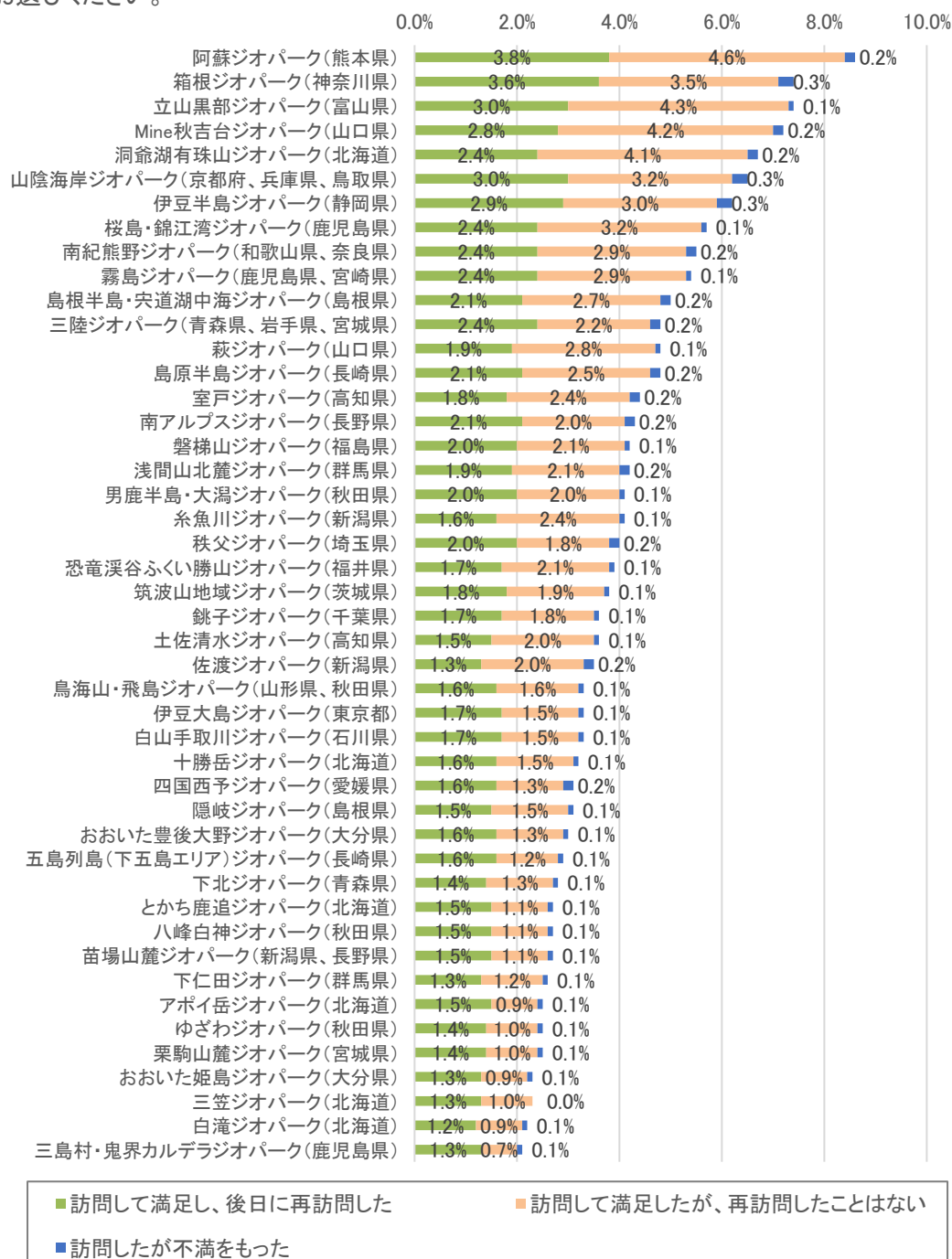
| | | n | Q1 | |
|------|------------|-------|-------|-------|
| | | | 知っている | 知らない |
| 全体 | | 10643 | 6102 | 4541 |
| 性年代別 | 男性 15～19 歳 | 4 | 75.0% | 25.0% |
| | 男性 20～29 歳 | 133 | 42.1% | 57.9% |
| | 男性 30～39 歳 | 336 | 39.0% | 61.0% |
| | 男性 40～49 歳 | 788 | 53.6% | 46.4% |
| | 男性 50～59 歳 | 1617 | 63.5% | 36.5% |
| | 男性 60 歳以上 | 2487 | 72.3% | 27.7% |
| | 女性 15～19 歳 | 33 | 21.2% | 78.8% |
| | 女性 20～29 歳 | 510 | 34.9% | 65.1% |
| | 女性 30～39 歳 | 972 | 39.8% | 60.2% |
| | 女性 40～49 歳 | 1165 | 46.9% | 53.1% |
| | 女性 50～59 歳 | 1345 | 54.8% | 45.2% |
| | 女性 60 歳以上 | 1253 | 64.6% | 35.4% |

| | | n | 知っている | 知らない |
|----|------|------|-------|-------|
| 地域 | 北海道 | 558 | 59.9% | 40.1% |
| | 東北地方 | 894 | 61.9% | 38.1% |
| | 関東地方 | 3070 | 53.5% | 46.5% |
| | 中部地方 | 1850 | 56.6% | 43.4% |
| | 近畿地方 | 1866 | 55.1% | 44.9% |
| | 中国地方 | 723 | 64.2% | 35.8% |
| | 四国地方 | 477 | 66.2% | 33.8% |
| | 九州地方 | 1205 | 59.6% | 40.4% |

※Excel「条件付き書式」を利用し、数値が高い項目はより赤に、低い項目はより青くなるように表示している。

[2] ジオパークごとの訪問と再訪問状況 (n=10643)

Q2.各地の訪問状況について、あなたにもっとも当てはまるものを1つだけお選びください。



※「訪問して満足し再訪問」「訪問して満足したが再訪問していない」「訪問したが不満」を足し合わせた「訪問度合」の数値でソートし、数値が多いジオパーク名を上に表示している。

■回答の特徴

ジオパーク 46 か所を対象に、「訪問の有無と満足・不満」「再訪問の有無」を聞いている。①「訪問して満足し再訪問」、②「訪問して満足したが再訪問してない」、③「訪問したが不満」を足し合わせた「訪問度合」(①+②+③)の結果は、「阿蘇ジオパーク(熊本県)」が 8.8%(前述の①3.8%、②4.6%、③0.2%)と最も多く、次に「箱根ジオパーク(神奈川県)」(①3.6%、②3.5%、③0.3%)と「立山黒部ジオパーク(富山県)」(①3.0%、②4.3%、③0.1%)が 7.4%で同率 2 位、さらに「Mine 秋吉台ジオパーク(山口県)」「洞爺湖有珠山ジオパーク(北海道)」と続いた。

また、参考までに訪問度合を降順に並べた表の右に「再訪問度合(①満足し再訪問÷訪問度合)」を追加した表を作成した(下記)。

おおむね「訪問度合」が高いジオパークよりも下位のジオパークが再訪問割合では上位にきているが、下位はそもそもの訪問度合の割合が低いいため、あくまで参考値として示したい。とはいえ、一部ジオパークは訪問度合があまり高くなくても、訪問者に満足してもらうことに成功して再訪問に結び付けているジオパークもあると言える。自身のジオパークの活動を振り返り、他ジオパークの取り組みを学ぶきっかけになれば幸いである。

表：訪問度合を降順に並べた表の右に「再訪問度合(①満足し再訪問÷訪問度合)」を追加したジオパーク一覧表

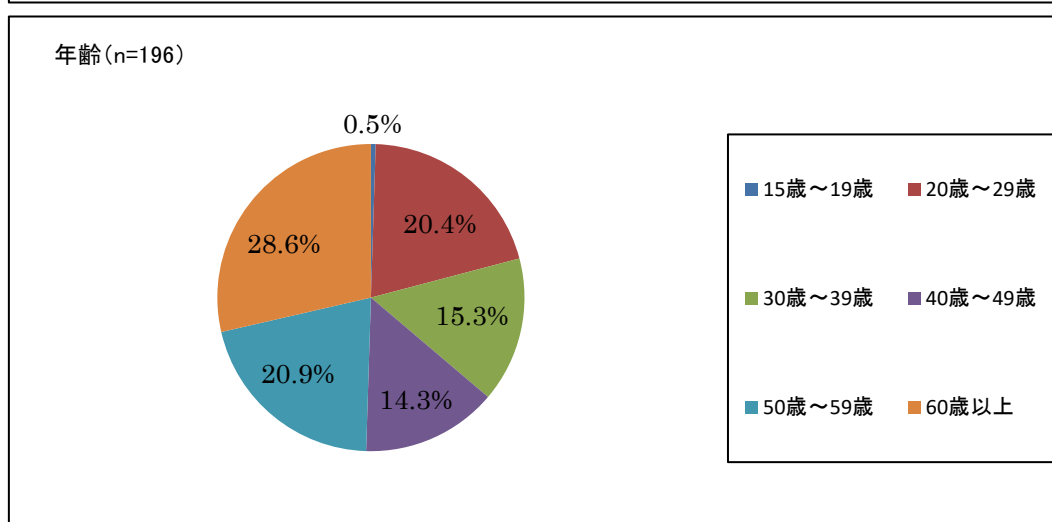
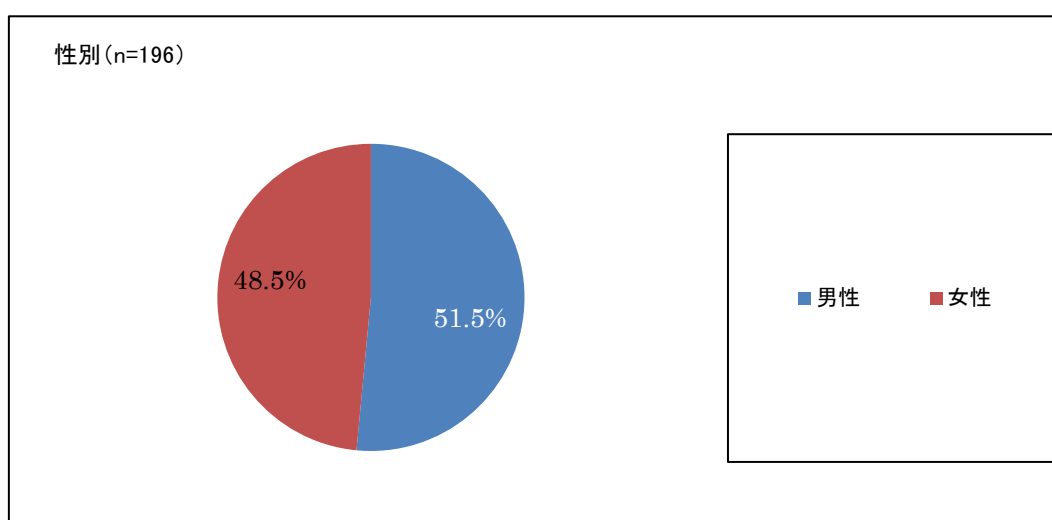
| ジオパーク名 | 位 | 訪問度合 | 位 | 再訪問度合 |
|------------------------|----|------|----|-------|
| 阿蘇ジオパーク(熊本県) | 1 | 8.6% | 33 | 44.2% |
| 箱根ジオパーク(神奈川県) | 2 | 7.4% | 23 | 48.6% |
| 立山黒部ジオパーク(富山県) | 3 | 7.4% | 41 | 40.5% |
| Mine 秋吉台ジオパーク(山口県) | 4 | 7.2% | 44 | 38.9% |
| 洞爺湖有珠山ジオパーク(北海道) | 5 | 6.7% | 46 | 35.8% |
| 山陰海岸ジオパーク(京都府、兵庫県、鳥取県) | 6 | 6.5% | 30 | 46.2% |
| 伊豆半島ジオパーク(静岡県) | 7 | 6.2% | 29 | 46.8% |
| 桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県) | 8 | 5.7% | 37 | 42.1% |
| 南紀熊野ジオパーク(和歌山県、奈良県) | 9 | 5.5% | 35 | 43.6% |
| 霧島ジオパーク(鹿児島県、宮崎県) | 10 | 5.4% | 32 | 44.4% |
| 島根半島・宍道湖中海ジオパーク(島根県) | 11 | 5.0% | 38 | 42.0% |
| 三陸ジオパーク(青森県、岩手県、宮城県) | 12 | 4.8% | 16 | 50.0% |
| 萩ジオパーク(山口県) | 12 | 4.8% | 42 | 39.6% |
| 島原半島ジオパーク(長崎県) | 12 | 4.8% | 34 | 43.8% |
| 室戸ジオパーク(高知県) | 15 | 4.4% | 40 | 40.9% |
| 南アルプスジオパーク(長野県) | 16 | 4.3% | 21 | 48.8% |

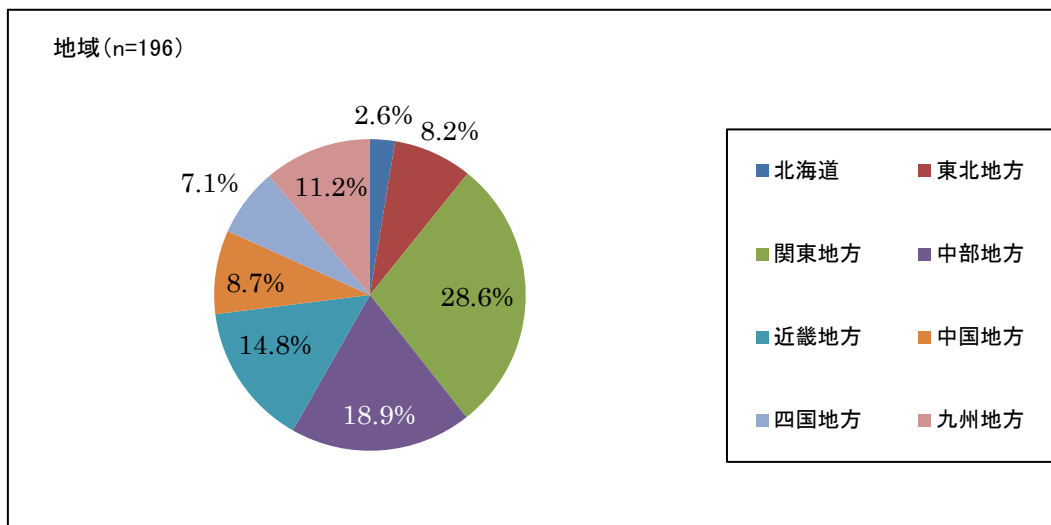
| ジオパーク名 | 位 | 訪問度合 | 位 | 再訪問度合 |
|------------------------|----|------|----|-------|
| 磐梯山ジオパーク(福島県) | 17 | 4.2% | 26 | 47.6% |
| 浅間山北麓ジオパーク(群馬県) | 18 | 4.2% | 31 | 45.2% |
| 男鹿半島・大湊ジオパーク(秋田県) | 19 | 4.1% | 22 | 48.8% |
| 糸魚川ジオパーク(新潟県) | 19 | 4.1% | 43 | 39.0% |
| 秩父ジオパーク(埼玉県) | 21 | 4.0% | 20 | 50.0% |
| 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク(福井県) | 22 | 3.9% | 36 | 43.6% |
| 筑波山地域ジオパーク(茨城県) | 23 | 3.8% | 27 | 47.4% |
| 銚子ジオパーク(千葉県) | 24 | 3.6% | 28 | 47.2% |
| 土佐清水ジオパーク(高知県) | 24 | 3.6% | 39 | 41.7% |
| 佐渡ジオパーク(新潟県) | 26 | 3.5% | 45 | 37.1% |
| 鳥海山・飛島ジオパーク(山形県、秋田県) | 27 | 3.3% | 24 | 48.5% |
| 伊豆大島ジオパーク(東京都) | 27 | 3.3% | 14 | 51.5% |
| 白山手取川ジオパーク(石川県) | 27 | 3.3% | 14 | 51.5% |
| 十勝岳ジオパーク(北海道) | 30 | 3.2% | 16 | 50.0% |
| 四国西予ジオパーク(愛媛県) | 31 | 3.1% | 13 | 51.6% |
| 隠岐ジオパーク(島根県) | 31 | 3.1% | 25 | 48.4% |
| おおいた豊後大野ジオパーク(大分県) | 33 | 3.0% | 12 | 53.3% |
| 五島列島(下五島エリア)ジオパーク(長崎県) | 34 | 2.9% | 10 | 55.2% |
| 下北ジオパーク(青森県) | 35 | 2.8% | 19 | 50.0% |
| とかち鹿追ジオパーク(北海道) | 36 | 2.7% | 7 | 55.6% |
| 八峰白神ジオパーク(秋田県) | 36 | 2.7% | 7 | 55.6% |
| 苗場山麓ジオパーク(新潟県、長野県) | 36 | 2.7% | 7 | 55.6% |
| 下仁田ジオパーク(群馬県) | 39 | 2.6% | 16 | 50.0% |
| アポイ岳ジオパーク(北海道) | 40 | 2.5% | 2 | 60.0% |
| ゆざわジオパーク(秋田県) | 41 | 2.5% | 5 | 56.0% |
| 栗駒山麓ジオパーク(宮城県) | 41 | 2.5% | 5 | 56.0% |
| おおいた姫島ジオパーク(大分県) | 43 | 2.3% | 4 | 56.5% |
| 三笠ジオパーク(北海道) | 44 | 2.3% | 3 | 56.5% |
| 白滝ジオパーク(北海道) | 45 | 2.2% | 11 | 54.5% |
| 三島村・鬼界カルデラジオパーク(鹿児島県) | 46 | 2.1% | 1 | 61.9% |

IV. 不満抽出調査 2022 の概要

| | |
|-----------|-----------------------------------------------------|
| ■ 調査名 | ジオパーク不満抽出調査 2022 |
| ■ 調査方法 | インターネット調査 |
| ■ 実施期間 | 2023年02月03日～06日 |
| ■ 調査対象 | 認知度調査で「Q2. ジオパークへの訪問、満足・不満、再訪問」に「不満を感じた」と回答した人 276人 |
| ■ 回収数 | 計 254 回答 |
| ■ 有効サンプル数 | 計 196 回答 ※Q1 で「未訪問」の回答者を除外 |

▽回答者属性





■回答者属性の特徴と留意点

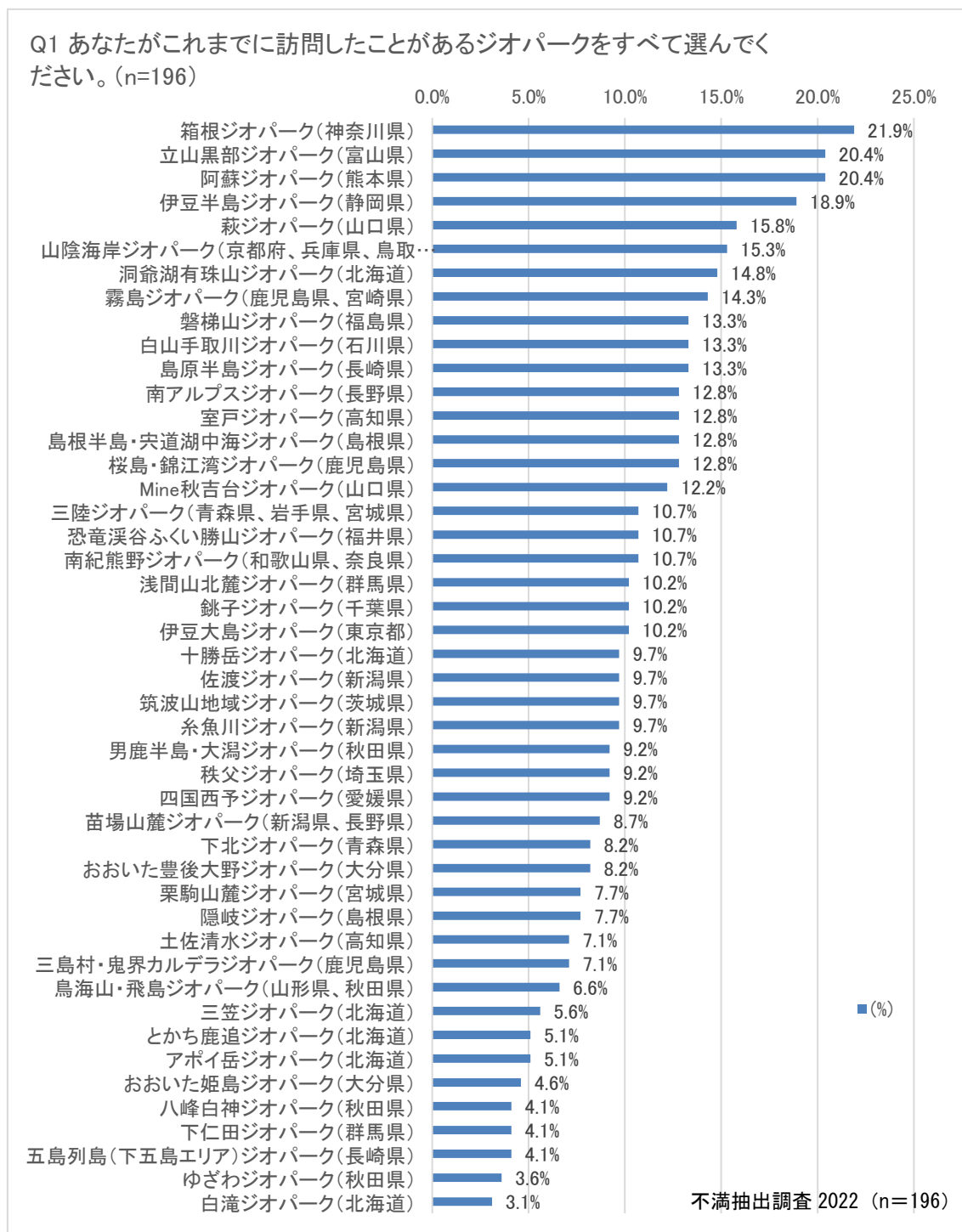
男女比は、調査時に割り付けたためほぼ同率。年齢は認知度調査と同じく、年代が高い人の回答率が多いが、20代も多く、30～40代の回答割合が低い点は留意したい。

地域別の回答数は、関東を中心に都市圏が多い。また、人口比で見ると北海道や近畿地方が少ない。

18～19歳にも調査しているが、回答数が少ないため参考値としている。

V. 不満抽出調査 2022 の分析

[1] これまでに訪問したことがあるジオパーク(n=196)



■回答の特徴

認知度調査の Q2 で訪問したジオパークに「不満を感じた」を選択した回答者に対して、まずは「これまで訪問したことがあるジオパーク」を聞いた。上から「箱根ジオパーク(神奈川県)」「立山黒部ジオパーク(富山県)」「阿蘇ジオパーク(熊本県)」が多かった。

[2] 訪問したジオパークの不満・改善点 (n=169)

Q2 あなたが訪問したことがあるジオパークのうち、不満があった、改善点を見つけた場合は、それをお書きください。(n=169)

■回答の特徴

Q2で「訪問したジオパークの不満・改善点」を聞いている。196回答中、有益な44回答のみを以下に自由回答表として整理している。

それを見ると、多かったのは「案内不足、解説施設の不足、訪問したがよくわからない」といった情報発信の課題、「交通の便が悪い、駐車場が狭い、飲食店の不足」などアクセスや施設面の課題、さらに「ごみが落ちている、掃除が行き届いていない」といった環境・清掃面、一部は「子ども遊び場」に関する不満があげられている。

自ジオパークで同じ課題がないかを確認・検討してほしい。

▽Q2 不満・改善点 自由回答表 ※回答内容は記入内容のまま記載

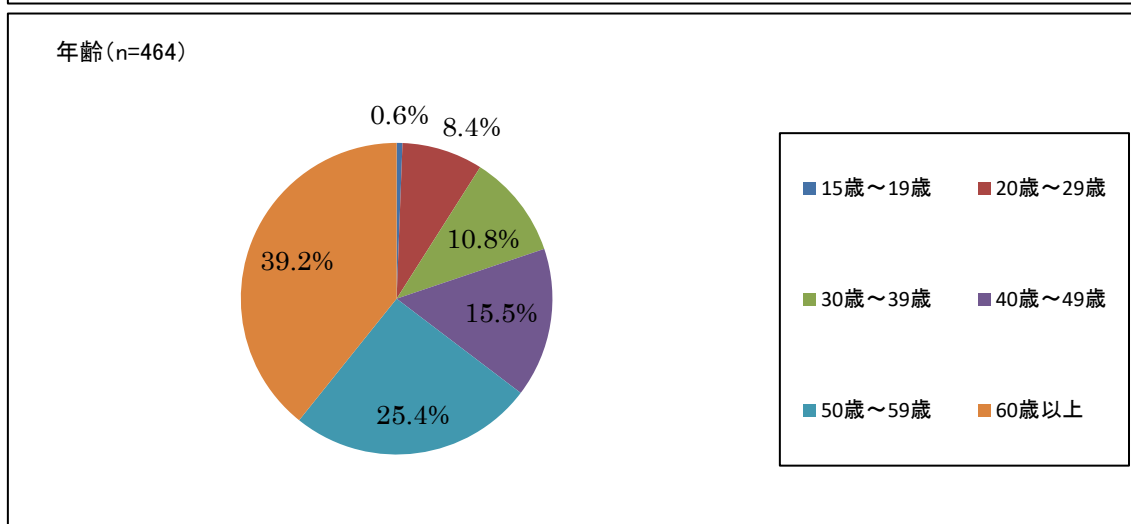
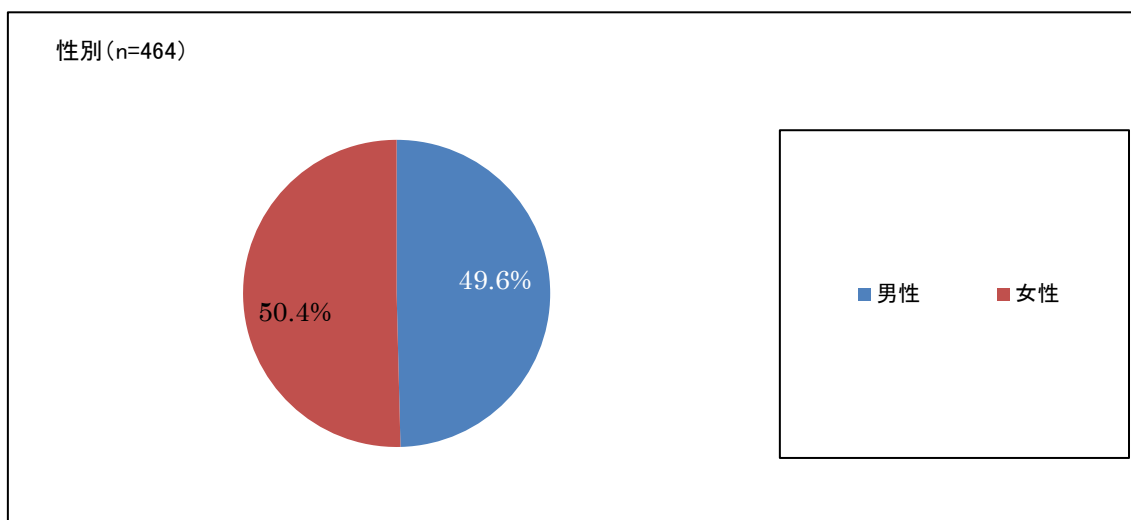
| No | 回答内容 |
|----|--------------------------------------------------------|
| 7 | 駐車場が狭い |
| 10 | 展示方法を工夫してもっと興味を引くようにした方が良く、体験などを加えた施設に変えていかないと記憶にも残らない |
| 11 | 箱根ジオパーク…人の手が入り込み過ぎている。 |
| 13 | 解説施設が充実していない。 |
| 16 | 特別なものではない。駐車場が少ない。道幅が狭い。 |
| 17 | ガイドの方々がいなければその良さ・実体験をする事に難がある。 |
| 18 | あまり覚えていないが、また行きたいとは思わなかった |
| 20 | 飲食店が少ない |
| 25 | 普及点がバラバラ |
| 29 | 閑散としていた |
| 31 | どこも活気がない。 |
| 35 | お子様がたくさんパーク内で遊んでいた。子供たちにはいい遊び場。年寄りには広過ぎて移動が大変。 |
| 38 | ご飯や少ない |
| 59 | 行った先では施設がきれいでとても良かったと思ったが子供向けのアトラクションとかあればいいと思った |
| 62 | こんなものかなと思ってみたので不満はない。土や水の流れが整い過ぎていると逆に魅力はなくなる。 |

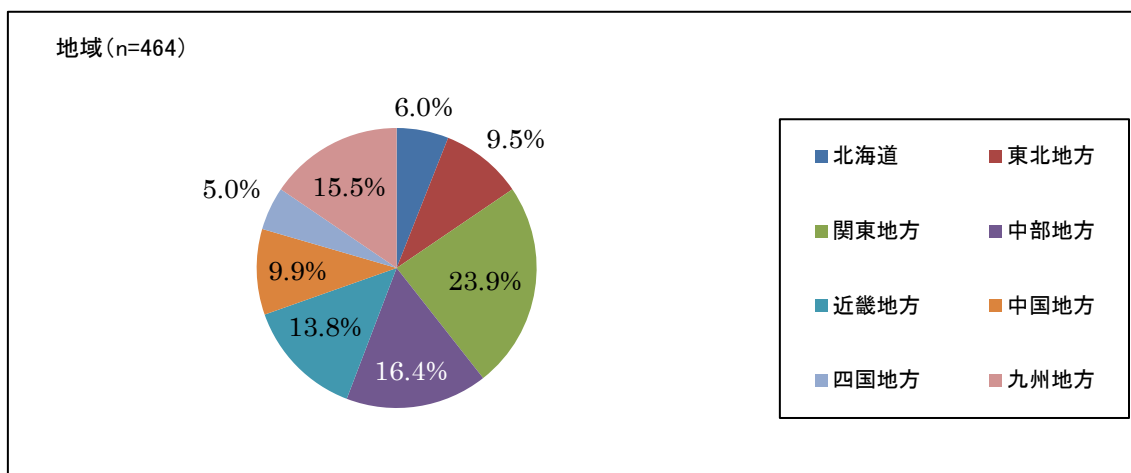
| | |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 68 | 先ず、そこがジオパークかどうかをもっと宣伝をした方が良いですね |
| 69 | 伊豆のジオパークは、展示資料に面白みがなく、学べることがなかった。 |
| 70 | 糸魚川に行ったが八卦もなく面白いこともなかった。もっと自然のだいご味も感じないし、その見せ方も下手 |
| 76 | 公共交通機関での移動が難しい場所が多い。 |
| 77 | 全体像といくつかのコースを紹介してほしい |
| 79 | 山陰海岸は、広大な距離もあり見どころが分かりにくかった。景観は素晴らしいので、もっと案内改善すれば良いのでは？ |
| 82 | 秩父ジオパークは、もっとSDGSを意識した、持続可能な表現力を、示した方が良い。 |
| 90 | 萩は車が駐車場に入らない |
| 92 | 子どもも楽しめる感じは少なかった |
| 94 | トイレが少ない |
| 95 | 波が高く遊覧船に乗れなかった。まあ仕方ないけどね。 |
| 99 | ありません。掃除はいきとどいてない感じです |
| 100 | 特にない。最初から期待して訪問していない。その場その場で楽しみを見つける。 |
| 108 | 石川県のは規模が小さすぎた |
| 119 | 秩父は道が荒れていて運転が大変だった |
| 127 | 人が多すぎて楽しめなかった |
| 129 | 山陰海岸。歩道を整備して欲しい。 |
| 132 | どこに在るのかわからないです。 |
| 137 | 広すぎて焦点がぼける。 |
| 139 | 室戸、ガイドさんの予約が難しい。室戸岬以外は自家用車が必須。昼食する場所がない。 |
| 142 | 桜島ジオパークエリアに住んでいますが、訪れてもらうのが恥ずかしいくらいひどいです。ポイ捨て、不法投棄、ビニール焼却など、環境が荒れ放題です。私は環境に優しい仕事をしていますが、逆に叩かれています。二度も廃業させられました。 |
| 146 | 大分は交通の便が気になった。 |
| 150 | 行っても、よく判らない |
| 151 | ごみがたくさん落ちていた |
| 155 | 交通不便 |
| 156 | ジオパークまでの交通機関を改善してほしい。 |
| 157 | 白山:説明が十分になされていないから、現地で迷う。 |
| 158 | とても綺麗、働いている人が親切 |
| 169 | 無し。交通事情が良くないのは、致し方なし、か。 |

VI. 周遊状況調査 2022 の概要

| | |
|-----------|------------------------------------------------------------------|
| ■ 調査名 | ジオパーク周遊状況調査 2022 |
| ■ 調査方法 | インターネット調査 |
| ■ 実施期間 | 2023年02月06日～07日 |
| ■ 調査対象 | 認知度調査「Q2. ジオパークへの訪問、満足・不満、再訪問」に対して、2か所以上のジオパークに「訪問した」と回答した人 718人 |
| ■ 回収数 | 計 563 回答 |
| ■ 有効サンプル数 | 計 464 回答 ※Q1「コロナ禍のあと」、Q3「コロナ禍のまえ」のどちらもジオパークに訪問していないと選択した回答者は除外した |

▽回答者属性





■回答者属性の特徴と留意点

男女比は、調査時に割り付けたためほぼ同率。年齢は 60 代以上の人の回答率が 4 割近くと非常に多く、50 代の 25%とあわせて 65%程度が年齢の高い世代で占められている点は留意したい。

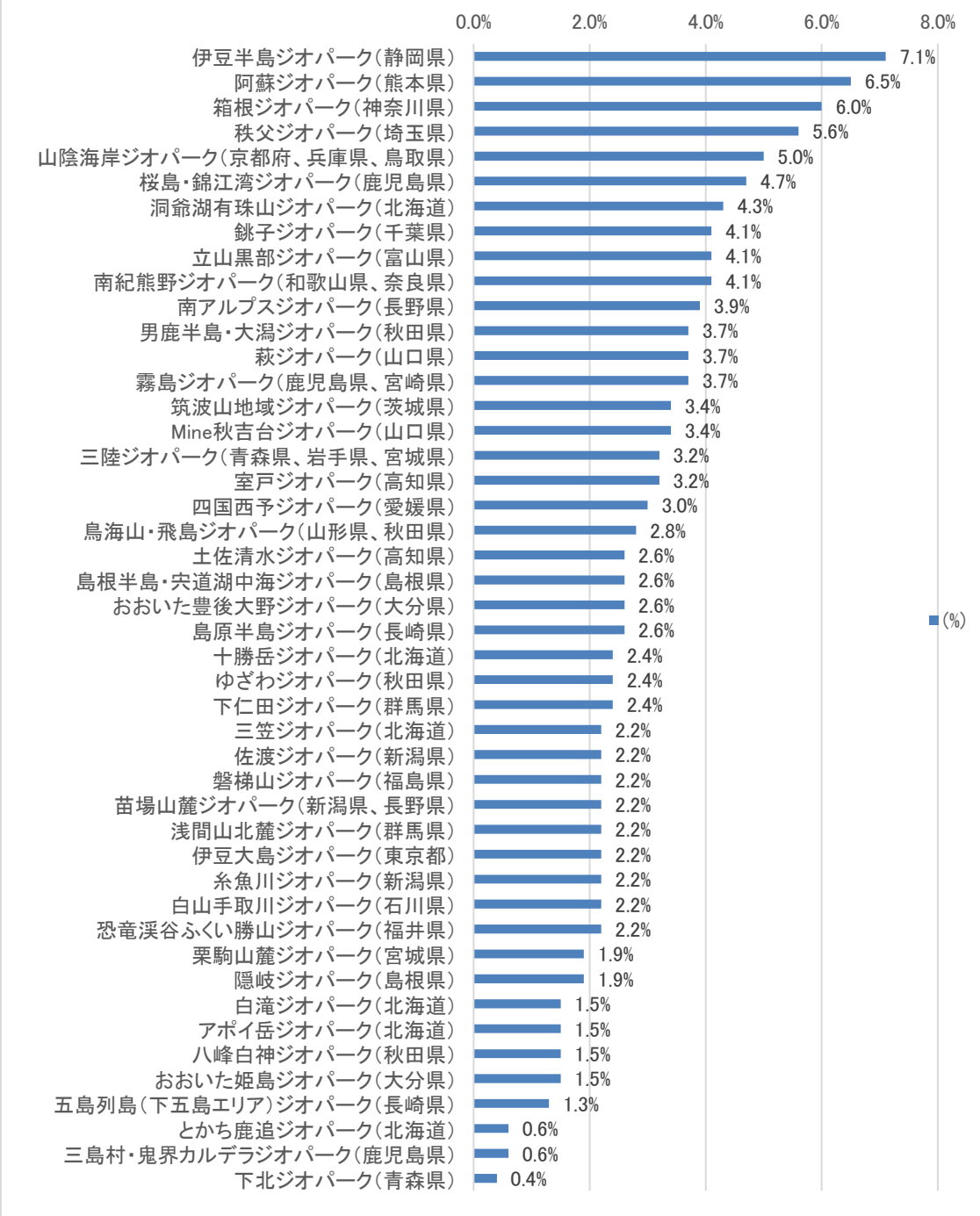
地域別の回答数は、関東と中部、九州地方が多い。また、人口比で見ると北海道や近畿地方が少ない。

18～19 歳にも調査しているが、回答数が少ないため参考値としている。

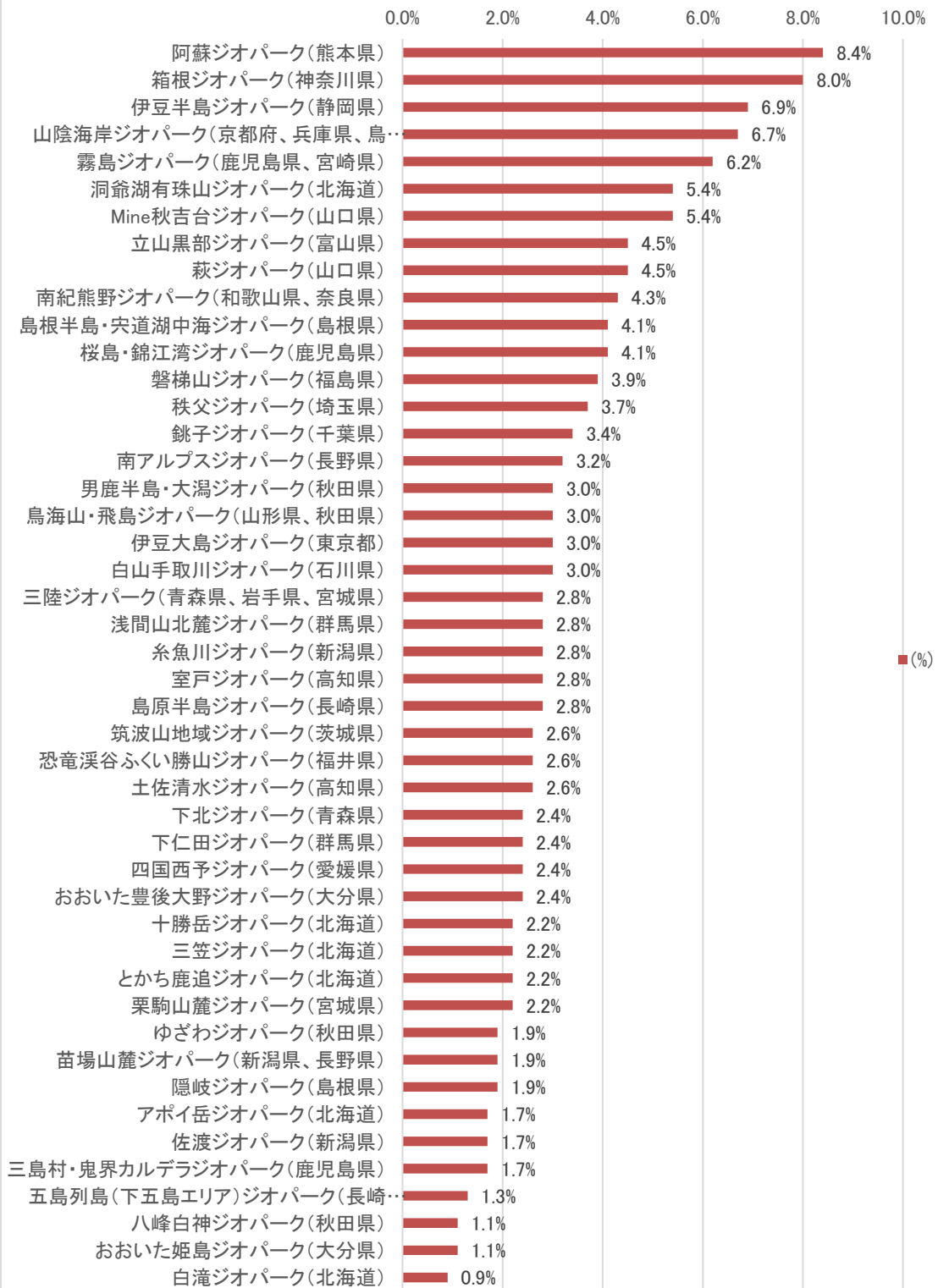
VII. 周遊状況調査 2022 の分析

[1] コロナ禍の前後で訪問したことがあるジオパーク(n=464)

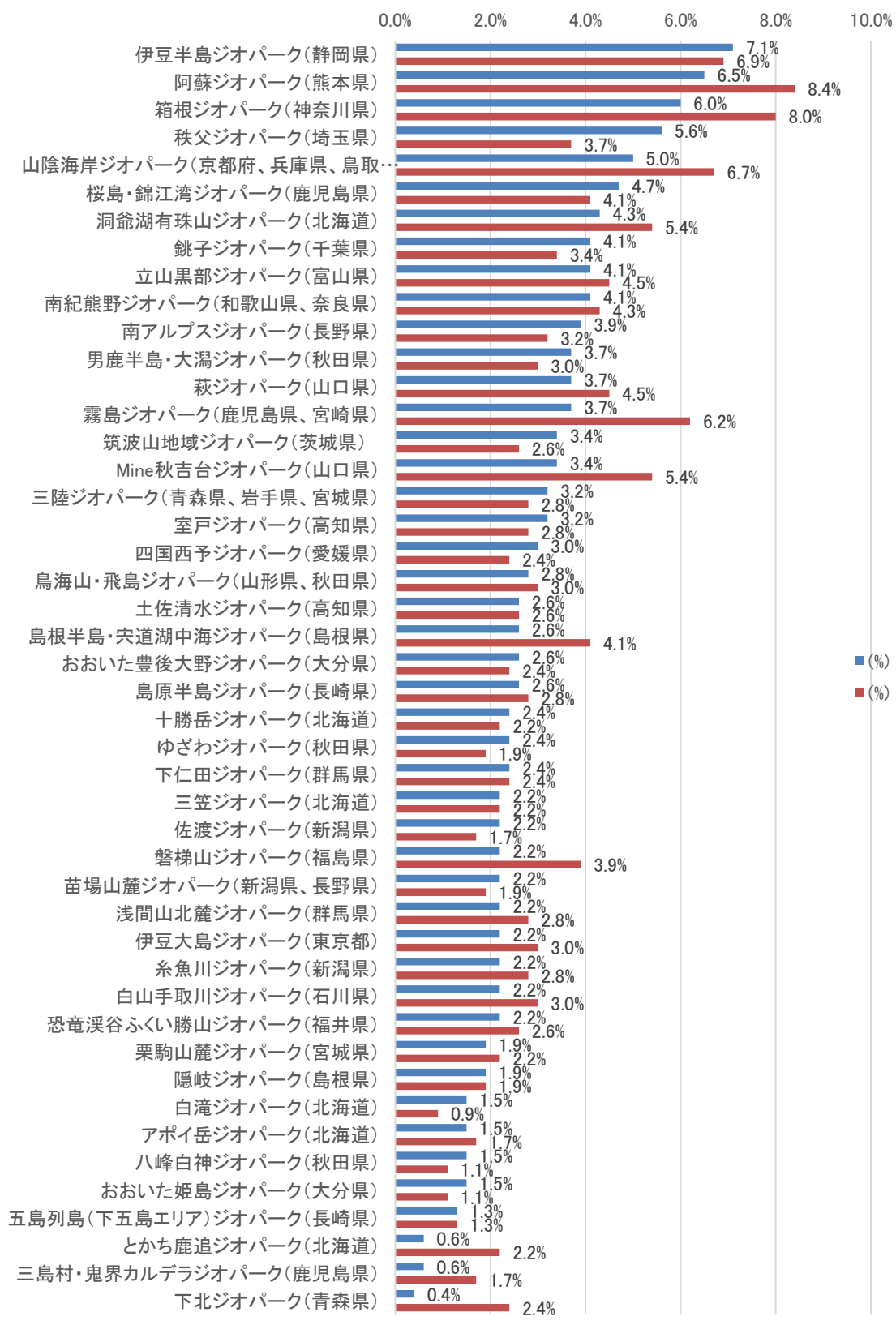
Q1 あなたが2021～2022年中に訪問したことがあるジオパークをすべて選んでください。



Q3 あなたが2018～2019年中に訪問したことがあるジオパークをすべて選んでください。



Q1,Q3 コロナ禍の前後でのジオパーク訪問



■回答の特徴

Q1 ではコロナ禍のあとの訪問(青グラフ)を、Q3 ではコロナ禍のまえの訪問(赤グラフ)を聞いている。3 つめの図では、前後での訪問割合を比較しているが、①コロナ禍のまえの数值は高いが、あとの数值が低いジオパーク(青より赤が多い)、②逆にコロナ禍のあとの数值が高く、まえの数值が低いジオパーク(赤より青が多い)、③前後であまり数值が変わらないジオパーク(青も赤も大きく変わらない)があった。

それぞれ前後(青と赤)の数值が 2 ポイント程度変化したジオパークをあげると、①コロナ禍により訪問割合が減少したジオパークとして「霧島ジオパーク」が 2.5 ポイントの減少、つづいて「Mine 秋吉台ジオパーク」「箱根ジオパーク」「下北ジオパーク」が 2.0 ポイント、「阿蘇ジオパーク」や「山陰海岸ジオパーク」「磐梯山ジオパーク」「とちぎ鹿追ジオパーク」も影響が一定程度あったと言える。

また、②コロナ禍のあと訪問割合が増加したジオパークとして、「秩父ジオパーク」が 1.9 ポイント変化している。ほかに 1 ポイント以上増加しているジオパークがないため参考値であるが、軒並み減少や変化が乏しいなかで「筑波山地域ジオパーク」「男鹿半島・大湊ジオパーク」「南アルプスジオパーク」「銚子ジオパーク」などは微増していると言える。

なお、分析上、グラフには記載していないが、「上記にはない／訪問したことがない」との回答が、Q1 のコロナ禍あとの訪問では 39.9%あり、Q3 のコロナ禍のまえの訪問では 30.8%と、訪問していない人が一定数いたことは留意したい。

[2] 2021～2022 年中に直接訪問したことがあるジオパークの訪問順 (n=118)

Q2 あなたが前問で選んだ 2021～2022 年中に直接訪問したことがあるジオパークのうち、訪問した順番を選んでください。(n=118)

■回答の特徴

Q2 では「2021～2022 年中に直接訪問したことがあるジオパークの訪問順」を聞いている。うち、有効な 118 回答を①近隣での周遊とみられる訪問順、②近隣での周遊と遠隔地を含む訪問順、③訪問時期が別などの理由で遠隔地への訪問を含む訪問順、を表にまとめている。

これを見ると、同県や近隣での周遊傾向がある程度とらえることができる。前述の訪問度合の高い「阿蘇ジオパーク」から九州内のジオパークに周遊するパターン、「箱根ジオパーク」や「伊豆半島ジオパーク」などから関東圏のジオパークに訪問するパターン、あとは「北海道内」、「中国地方内」、「四国近隣」などで周遊するパターンなどがよくみられる。

ただ、「1つの旅行」での周遊は、後述する通り数が多い。次の[3]の分析を参照してほしい。これらの訪問順を参考に、訪問の「入口」と「次訪問先、周遊先」を特定して、さらなる周遊を促す施策を検討されたい。

▽Q2 2021～2022 年中に直接訪問したことがあるジオパークの訪問順(近隣)一覧表

| No. | 回答 |
|-----|---------------------------------------------------------|
| 1 | 室戸ジオパーク(高知県)→山陰海岸ジオパーク(京都府、兵庫県、鳥取県)→南紀熊野ジオパーク(和歌山県、奈良県) |
| 2 | 箱根ジオパーク(神奈川県)→伊豆半島ジオパーク(静岡県) |
| 3 | 霧島ジオパーク(鹿児島県、宮崎県)→桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県) |
| 4 | 箱根ジオパーク(神奈川県)→秩父ジオパーク(埼玉県) |
| 5 | 伊豆半島ジオパーク(静岡県)→箱根ジオパーク(神奈川県)→銚子ジオパーク(千葉県)→秩父ジオパーク(埼玉県) |
| 6 | 山陰海岸ジオパーク(京都府、兵庫県、鳥取県)→南紀熊野ジオパーク(和歌山県、奈良県) |
| 7 | 阿蘇ジオパーク(熊本県)→おおいた豊後大野ジオパーク(大分県) |
| 8 | 秩父ジオパーク(埼玉県)→箱根ジオパーク(神奈川県)→伊豆半島ジオパーク(静岡県) |
| 9 | 隠岐ジオパーク(島根県)→島根半島・宍道湖中海ジオパーク(島根県) |
| 10 | 箱根ジオパーク(神奈川県)→銚子ジオパーク(千葉県)→秩父ジオパーク(埼玉県)→伊豆半島ジオパーク(静岡県) |
| 11 | 下仁田ジオパーク(群馬県)→筑波山地域ジオパーク(茨城県) |
| 12 | ゆざわジオパーク(秋田県)→男鹿半島・大湯ジオパーク(秋田県)→鳥海山・飛島ジオパーク(山形県、秋田県) |

| | |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 13 | 阿蘇ジオパーク(熊本県)→桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県)→霧島ジオパーク(鹿児島県、宮崎県) |
| 14 | 箱根ジオパーク(神奈川県)→秩父ジオパーク(埼玉県)→筑波山地域ジオパーク(茨城県) |
| 15 | 箱根ジオパーク(神奈川県)→銚子ジオパーク(千葉県)→筑波山地域ジオパーク(茨城県)→秩父ジオパーク(埼玉県)→伊豆大島ジオパーク(東京都)→おおいた豊後大野ジオパーク(大分県)→糸魚川ジオパーク(新潟県) |
| 16 | 阿蘇ジオパーク(熊本県)→おおいた豊後大野ジオパーク(大分県)→桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県)→山陰海岸ジオパーク(京都府、兵庫県、鳥取県) |
| 17 | 桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県)→霧島ジオパーク(鹿児島県、宮崎県)→阿蘇ジオパーク(熊本県) |
| 18 | 阿蘇ジオパーク(熊本県)→霧島ジオパーク(鹿児島県、宮崎県)→桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県) |
| 19 | 十勝岳ジオパーク(北海道)→アポイ岳ジオパーク(北海道) |
| 20 | 白山手取川ジオパーク(石川県)→恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク(福井県)→立山黒部ジオパーク(富山県) |
| 21 | 桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県)→阿蘇ジオパーク(熊本県)→おおいた姫島ジオパーク(大分県) |
| 22 | 銚子ジオパーク(千葉県)→筑波山地域ジオパーク(茨城県) |
| 23 | おおいた豊後大野ジオパーク(大分県)→阿蘇ジオパーク(熊本県) |
| 24 | 三陸ジオパーク(青森県、岩手県、宮城県)→栗駒山麓ジオパーク(宮城県) |
| 25 | 山陰海岸ジオパーク(京都府、兵庫県、鳥取県)→島根半島・宍道湖中海ジオパーク(島根県) |
| 26 | 十勝岳ジオパーク(北海道)→とがち鹿追ジオパーク(北海道)→洞爺湖有珠山ジオパーク(北海道)→白滝ジオパーク(北海道) |
| 27 | Mine 秋吉台ジオパーク(山口県)→萩ジオパーク(山口県) |
| 28 | 萩ジオパーク(山口県)→Mine 秋吉台ジオパーク(山口県)→隠岐ジオパーク(島根県) |
| 29 | 室戸ジオパーク(高知県)→土佐清水ジオパーク(高知県) |
| 30 | 箱根ジオパーク(神奈川県)→伊豆半島ジオパーク(静岡県) |
| 31 | 室戸ジオパーク(高知県)→土佐清水ジオパーク(高知県) |
| 32 | 隠岐ジオパーク(島根県)→Mine 秋吉台ジオパーク(山口県) |
| 33 | 桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県)→阿蘇ジオパーク(熊本県) |
| 34 | 洞爺湖有珠山ジオパーク(北海道)→十勝岳ジオパーク(北海道) |
| 35 | 洞爺湖有珠山ジオパーク(北海道)→三笠ジオパーク(北海道) |
| 36 | 島原半島ジオパーク(長崎県)→阿蘇ジオパーク(熊本県) |
| 37 | 萩ジオパーク(山口県)→Mine 秋吉台ジオパーク(山口県) |
| 38 | 四国西予ジオパーク(愛媛県)→土佐清水ジオパーク(高知県) |

| | |
|----|---------------------------------|
| 39 | 男鹿半島・大湯ジオパーク(秋田県)→ゆざわジオパーク(秋田県) |
| 40 | 土佐清水ジオパーク(高知県)→四国西予ジオパーク(愛媛県) |
| 41 | 筑波山地域ジオパーク(茨城県)→秩父ジオパーク(埼玉県) |

▽Q2 2021～2022 年中に直接訪問したことがあるジオパークの訪問順(近隣～遠隔地)一覧表

| No. | 回答 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 白山手取川ジオパーク(石川県)→立山黒部ジオパーク(富山県)→糸魚川ジオパーク(新潟県)→南アルプスジオパーク(長野県)→Mine 秋吉台ジオパーク(山口県) |
| 2 | 山陰海岸ジオパーク(京都府、兵庫県、鳥取県)→隠岐ジオパーク(島根県) |
| 3 | 白山手取川ジオパーク(石川県)→浅間山北麓ジオパーク(群馬県)→伊豆半島ジオパーク(静岡県) |
| 4 | 白滝ジオパーク(北海道)→白山手取川ジオパーク(石川県)→南アルプスジオパーク(長野県)→伊豆大島ジオパーク(東京都) |
| 5 | 秩父ジオパーク(埼玉県)→箱根ジオパーク(神奈川県)→洞爺湖有珠山ジオパーク(北海道) |
| 6 | 浅間山北麓ジオパーク(群馬県)→下仁田ジオパーク(群馬県)→苗場山麓ジオパーク(新潟県、長野県)→ゆざわジオパーク(秋田県)→糸魚川ジオパーク(新潟県)→箱根ジオパーク(神奈川県)→佐渡ジオパーク(新潟県) |
| 7 | 桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県)→島原半島ジオパーク(長崎県)→五島列島(下五島エリア)ジオパーク(長崎県) |
| 8 | 島原半島ジオパーク(長崎県)→阿蘇ジオパーク(熊本県)→萩ジオパーク(山口県)→Mine 秋吉台ジオパーク(山口県)→桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県) |
| 9 | 南アルプスジオパーク(長野県)→磐梯山ジオパーク(福島県) |
| 10 | 筑波山地域ジオパーク(茨城県)→伊豆大島ジオパーク(東京都) |
| 11 | 秩父ジオパーク(埼玉県)→浅間山北麓ジオパーク(群馬県) |
| 12 | 栗駒山麓ジオパーク(宮城県)→烏海山・飛鳥ジオパーク(山形県、秋田県) |
| 13 | 島原半島ジオパーク(長崎県)→桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県) |
| 14 | 立山黒部ジオパーク(富山県)→南アルプスジオパーク(長野県)→伊豆半島ジオパーク(静岡県) |
| 15 | 南紀熊野ジオパーク(和歌山県、奈良県)→山陰海岸ジオパーク(京都府、兵庫県、鳥取県) |
| 16 | 苗場山麓ジオパーク(新潟県、長野県)→筑波山地域ジオパーク(茨城県) |
| 17 | 十勝岳ジオパーク(北海道)→三笠ジオパーク(北海道)→とちかち鹿追ジオパーク(北海道)→山陰海岸ジオパーク(京都府、兵庫県、鳥取県) |
| 18 | Mine 秋吉台ジオパーク(山口県)→萩ジオパーク(山口県)→山陰海岸ジオパーク(京都府、兵庫県、鳥取県)→秩父ジオパーク(埼玉県)→島根半島・宍道湖中海ジオパーク(島根県)→お |

| | |
|----|--------------------------------------------------------------------------------------------------|
| | おいた姫島ジオパーク(大分県)→下仁田ジオパーク(群馬県)→白滝ジオパーク(北海道)→箱根ジオパーク(神奈川県) |
| 19 | 銚子ジオパーク(千葉県)→筑波山地域ジオパーク(茨城県) →磐梯山ジオパーク(福島県) |
| 20 | 銚子ジオパーク(千葉県)→伊豆半島ジオパーク(静岡県)→箱根ジオパーク(神奈川県) |
| 21 | 浅間山北麓ジオパーク(群馬県)→八峰白神ジオパーク(秋田県) |
| 22 | 土佐清水ジオパーク(高知県)→四国西予ジオパーク(愛媛県)→室戸ジオパーク(高知県) |
| 23 | 筑波山地域ジオパーク(茨城県) →秩父ジオパーク(埼玉県)→磐梯山ジオパーク(福島県) →糸魚川ジオパーク(新潟県) |
| 24 | ゆざわジオパーク(秋田県)→栗駒山麓ジオパーク(宮城県) |
| 25 | 糸魚川ジオパーク(新潟県)→磐梯山ジオパーク(福島県) |
| 26 | Mine 秋吉台ジオパーク(山口県)→萩ジオパーク(山口県)→桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県) →阿蘇ジオパーク(熊本県)→鳥海山・飛島ジオパーク(山形県、秋田県) |
| 27 | 三笠ジオパーク(北海道)→洞爺湖有珠山ジオパーク(北海道)→銚子ジオパーク(千葉県) |
| 28 | 立山黒部ジオパーク(富山県)→恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク(福井県)→白山手取川ジオパーク(石川県)→糸魚川ジオパーク(新潟県)→佐渡ジオパーク(新潟県)→苗場山麓ジオパーク(新潟県、長野県) |
| 29 | 秩父ジオパーク(埼玉県)→下仁田ジオパーク(群馬県) |
| 30 | 箱根ジオパーク(神奈川県)→伊豆半島ジオパーク(静岡県)→秩父ジオパーク(埼玉県) |
| 31 | 男鹿半島・大湊ジオパーク(秋田県)→三陸ジオパーク(青森県、岩手県、宮城県)→下仁田ジオパーク(群馬県) |

▽Q2 2021～2022 年中に直接訪問したことがあるジオパークの訪問順(遠隔地～別時期)一覧表

| No. | 回答 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 立山黒部ジオパーク(富山県)→室戸ジオパーク(高知県) |
| 2 | 南紀熊野ジオパーク(和歌山県、奈良県)→白山手取川ジオパーク(石川県) |
| 3 | 萩ジオパーク(山口県)→桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県) |
| 4 | Mine 秋吉台ジオパーク(山口県)→洞爺湖有珠山ジオパーク(北海道) |
| 5 | 阿蘇ジオパーク(熊本県)→立山黒部ジオパーク(富山県) |
| 6 | 男鹿半島・大湊ジオパーク(秋田県)→三笠ジオパーク(北海道)→下仁田ジオパーク(群馬県) |
| 7 | 四国西予ジオパーク(愛媛県)→三陸ジオパーク(青森県、岩手県、宮城県)→南アルプスジオパーク(長野県) |
| 8 | 下北ジオパーク(青森県)→栗駒山麓ジオパーク(宮城県)→伊豆半島ジオパーク(静岡県)→霧島ジオパーク(鹿児島県、宮崎県)→五島列島(下五島エリア)ジオパーク(長崎県)→46→男鹿半島・大湊ジオパーク(秋田県)→桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県)→ |
| 9 | アポイ岳ジオパーク(北海道)→南アルプスジオパーク(長野県) |

| | |
|----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 10 | 萩ジオパーク(山口県)→洞爺湖有珠山ジオパーク(北海道)→秩父ジオパーク(埼玉県) |
| 11 | 三陸ジオパーク(青森県、岩手県、宮城県)→箱根ジオパーク(神奈川県)→男鹿半島・大湊ジオパーク(秋田県) |
| 12 | 箱根ジオパーク(神奈川県)→南アルプスジオパーク(長野県)→恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク(福井県) |
| 13 | 箱根ジオパーク(神奈川県)→南紀熊野ジオパーク(和歌山県、奈良県)→伊豆大島ジオパーク(東京都) |
| 14 | 三陸ジオパーク(青森県、岩手県、宮城県)→土佐清水ジオパーク(高知県)→秩父ジオパーク(埼玉県) |
| 15 | 伊豆半島ジオパーク(静岡県)→三陸ジオパーク(青森県、岩手県、宮城県)→立山黒部ジオパーク(富山県)→洞爺湖有珠山ジオパーク(北海道)→下北ジオパーク(青森県)→栗駒山麓ジオパーク(宮城県)→八峰白神ジオパーク(秋田県)→男鹿半島・大湊ジオパーク(秋田県)→ |
| 16 | 伊豆半島ジオパーク(静岡県)→浅間山北麓ジオパーク(群馬県) |
| 17 | 秩父ジオパーク(埼玉県)→桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県) |
| 18 | 阿蘇ジオパーク(熊本県)→土佐清水ジオパーク(高知県) |
| 19 | 伊豆半島ジオパーク(静岡県)→土佐清水ジオパーク(高知県)→山陰海岸ジオパーク(京都府、兵庫県、鳥取県)→南紀熊野ジオパーク(和歌山県、奈良県)→萩ジオパーク(山口県)→島根半島・宍道湖中海ジオパーク(島根県)→四国西予ジオパーク(愛媛県)→秩父ジオパーク(埼玉県)→ |
| 20 | 阿蘇ジオパーク(熊本県)→島根半島・宍道湖中海ジオパーク(島根県)→おおいた姫島ジオパーク(大分県) |
| 21 | 下仁田ジオパーク(群馬県)→苗場山麓ジオパーク(新潟県、長野県)→南紀熊野ジオパーク(和歌山県、奈良県) |
| 22 | 伊豆半島ジオパーク(静岡県)→箱根ジオパーク(神奈川県)→阿蘇ジオパーク(熊本県)→佐渡ジオパーク(新潟県) |
| 23 | 浅間山北麓ジオパーク(群馬県)→阿蘇ジオパーク(熊本県) |
| 24 | 山陰海岸ジオパーク(京都府、兵庫県、鳥取県)→伊豆半島ジオパーク(静岡県) |
| 25 | 萩ジオパーク(山口県)→室戸ジオパーク(高知県)→霧島ジオパーク(鹿児島県、宮崎県)→四国西予ジオパーク(愛媛県) |
| 26 | 鳥海山・飛島ジオパーク(山形県、秋田県)→下仁田ジオパーク(群馬県)→浅間山北麓ジオパーク(群馬県) |
| 27 | 四国西予ジオパーク(愛媛県)→島根半島・宍道湖中海ジオパーク(島根県)→南アルプスジオパーク(長野県)→佐渡ジオパーク(新潟県) |
| 28 | 苗場山麓ジオパーク(新潟県、長野県)→隠岐ジオパーク(島根県)→三陸ジオパーク(青森県、岩手県、宮城県) |

| | |
|----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 29 | 三陸ジオパーク(青森県、岩手県、宮城県)→八峰白神ジオパーク(秋田県)→伊豆大島ジオパーク(東京都)→秩父ジオパーク(埼玉県)→桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県) |
| 30 | 室戸ジオパーク(高知県)→南アルプスジオパーク(長野県)→箱根ジオパーク(神奈川県)→筑波山地域ジオパーク(茨城県)→糸魚川ジオパーク(新潟県)→三笠ジオパーク(北海道)→秩父ジオパーク(埼玉県) |
| 31 | 伊豆半島ジオパーク(静岡県)→鳥海山・飛島ジオパーク(山形県、秋田県) |
| 32 | アポイ岳ジオパーク(北海道)→磐梯山ジオパーク(福島県)→立山黒部ジオパーク(富山県)→室戸ジオパーク(高知県) |
| 33 | 室戸ジオパーク(高知県)→立山黒部ジオパーク(富山県)→萩ジオパーク(山口県)→五島列島(下五島エリア)ジオパーク(長崎県)→霧島ジオパーク(鹿児島県、宮崎県)→下仁田ジオパーク(群馬県)→南アルプスジオパーク(長野県) |
| 34 | 島原半島ジオパーク(長崎県)→栗駒山麓ジオパーク(宮城県)→恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク(福井県) |
| 35 | 五島列島(下五島エリア)ジオパーク(長崎県)→秩父ジオパーク(埼玉県)→男鹿半島・大湊ジオパーク(秋田県) |
| 36 | 十勝岳ジオパーク(北海道)→立山黒部ジオパーク(富山県) |
| 37 | 南アルプスジオパーク(長野県)→銚子ジオパーク(千葉県)→伊豆半島ジオパーク(静岡県)→伊豆大島ジオパーク(東京都)→苗場山麓ジオパーク(新潟県、長野県)→筑波山地域ジオパーク(茨城県)→箱根ジオパーク(神奈川県) |
| 38 | 立山黒部ジオパーク(富山県)→桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県) |
| 39 | 鳥海山・飛島ジオパーク(山形県、秋田県)→桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県)→阿蘇ジオパーク(熊本県) |
| 40 | 四国西予ジオパーク(愛媛県)→南紀熊野ジオパーク(和歌山県、奈良県)→白山手取川ジオパーク(石川県) |
| 41 | 箱根ジオパーク(神奈川県)→筑波山地域ジオパーク(茨城県)→銚子ジオパーク(千葉県) |
| 42 | 三陸ジオパーク(青森県、岩手県、宮城県)→島根半島・宍道湖中海ジオパーク(島根県)→白滝ジオパーク(北海道)→アポイ岳ジオパーク(北海道)→洞爺湖有珠山ジオパーク(北海道)→とちかち鹿追ジオパーク(北海道)→隠岐ジオパーク(島根県)→十勝岳ジオパーク(北海道)→栗駒山麓ジオパーク(宮城県) |
| 43 | 恐竜溪谷ふくい勝山ジオパーク(福井県)→南紀熊野ジオパーク(和歌山県、奈良県) |
| 44 | 島根半島・宍道湖中海ジオパーク(島根県)→山陰海岸ジオパーク(京都府、兵庫県、鳥取県)→土佐清水ジオパーク(高知県) |
| 45 | 立山黒部ジオパーク(富山県)→南紀熊野ジオパーク(和歌山県、奈良県) |
| 46 | 銚子ジオパーク(千葉県)→伊豆半島ジオパーク(静岡県) |

[3] ここ5年間で1つの旅行での訪問順(n=322)

Q5 あなたがここ5年間で、1つの旅行で複数のジオパークに訪問したことがある場合、「訪問した順番のジオパーク名」を教えてください。複数ある場合は、すべて記入欄にお書きください。
(n=322)

■回答の特徴

Q5では「ここ5年間で1つの旅行での訪問順」を聞いているが、うち有効な59回答を表にまとめて記載した。

これを見ると、九州地方や北海道、関東圏、四国、東北や日本海側などで、1つの旅行でジオパーク間を周遊している様子がわかる。海外では一般的であろう、中～長期的な旅行による訪問は、今回の調査では回答は1件のみであった(No.178の回答:山陰～山陽で10日間、四国～中国～京都で1週間)。日本人の旅行の期間は短いことを前提として考えるべきであろう。

また、分析上は省いているが「1つの旅行で複数のジオパークに訪問しない」「1つのジオパークに訪問した」との回答が約70回答あり、ジオパークの特性上、1つの旅行での周遊が可能なジオパークは限られていると考えたほうがよいだろう。

なお、一部の回答には時期が別の訪問が記載されているが、参考までにそのまま掲載している。

▽Q5 ここ5年間で1つの旅行での訪問順 一覧表

| No. | 回答 |
|-----|------------------------------------------------------------------|
| 6 | 住んでる所 中海宍道湖ジオパーク 山陰海岸ジオパーク |
| 9 | “2019 阿蘇 2020 桜島、霧島 2021,2022 霧島” |
| 12 | 2018年夏:恐竜渓谷ふくい勝山→白山手取川→立山黒部 2019年夏:伊豆半島→箱根 2020年夏:白山手取川→立山黒部→糸魚川 |
| 15 | おが島海山 |
| 17 | 2019年春 南紀・熊野ジオパーク |
| 25 | 大分豊後、阿蘇 |
| 40 | 洞爺湖ジオパーク 2018年、2019年夏三陸ジオパーク 2022年春 |
| 41 | 2018年冬黒部ジオパーク 2019年春糸魚川ジオパーク |
| 44 | 2022年春 秋吉台ジオパーク→2022年夏 桜島ジオパーク |
| 51 | 2020 青森県下北半島 |
| 56 | 2018年北海道ジオパーク |
| 57 | 伊豆→糸魚川→大島 |
| 62 | 2017秋 阿蘇 2016秋 桜島・錦江湾 2015秋 萩 |

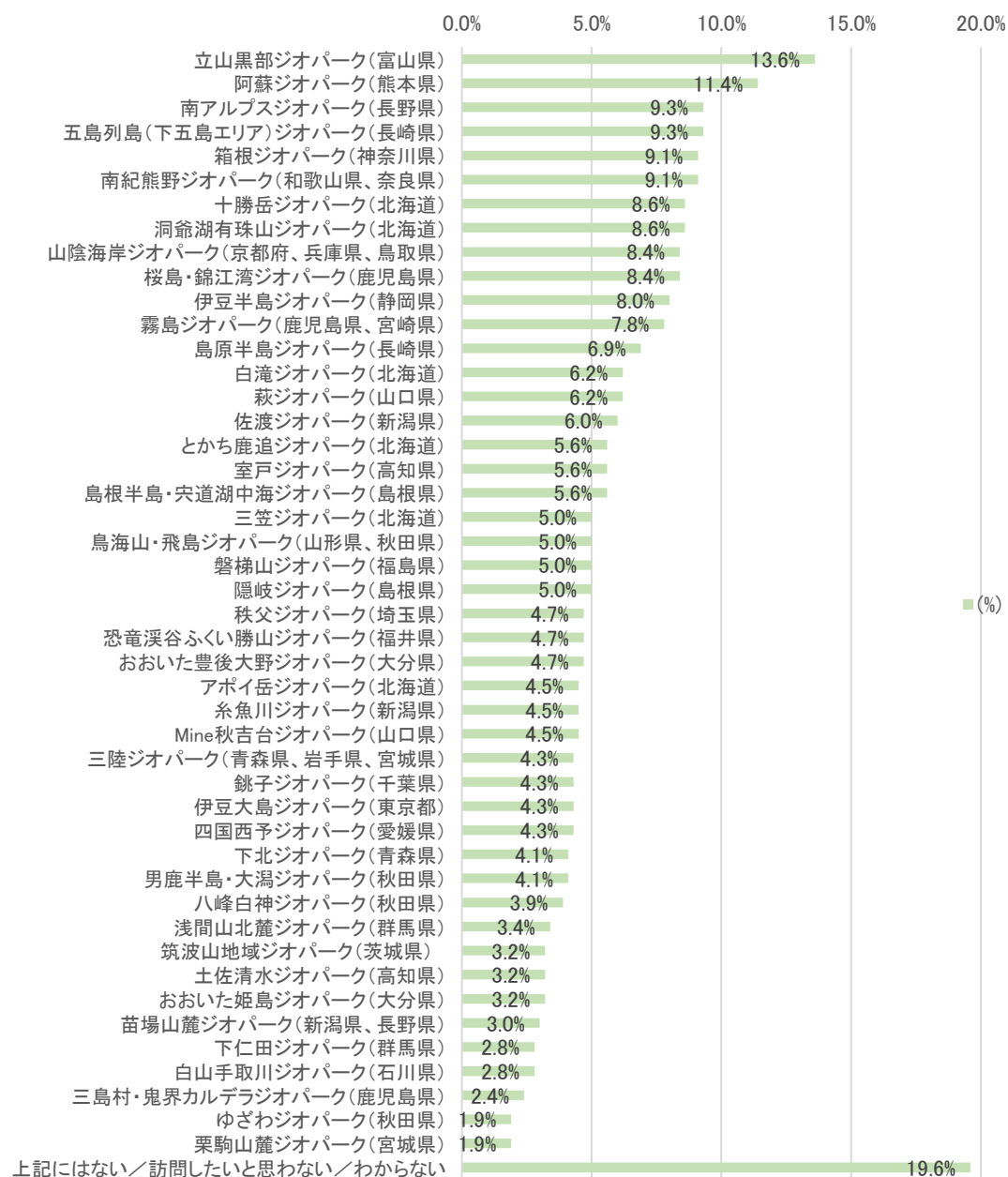
| | |
|-----|------------------------------------------------------------------------------|
| 70 | 秩父→茨城 |
| 78 | 2018 伊豆 2019 箱根 |
| 107 | 隠岐、萩 |
| 128 | おおいた大野、阿蘇 |
| 134 | 糸魚川→立山 |
| 137 | 2018～2020 年毎年秋栗駒ジオパーク, 2018～2023 年季節問わず三陸ジオパーク(地元なのでいつでも行きやすい。) |
| 141 | 霧島→桜島→宍道湖 |
| 158 | 2019 秋 南アルプス 2021 春 桜島錦江湾 2021 春 秩父 |
| 160 | 2018 年夏 土佐清水→島根宍道湖 |
| 163 | 2020 夏清水→2022 春室戸 |
| 169 | 島原→五島 |
| 170 | 箱根ジオパーク 伊豆ジオパーク |
| 173 | 阿蘇 銚子 |
| 175 | 鹿児島 立山 |
| 178 | 山陰山陽の場合広島→山口→島根→鳥取→兵庫→京都→福井県ってなかんじで 10 日間くらい四国の場合淡路島→徳島→高知→愛媛→香川→岡山→京都で 1 週間 |
| 181 | 2018 年春 阿蘇ジオパーク→大分ジオパーク |
| 187 | 桜島から阿蘇へ |
| 190 | 湯沢と鳥海 |
| 198 | 2019年夏十勝、2021 年冬群馬2箇所、2022 年秋山形鳥海山 |
| 208 | 洞爺湖 十勝ジオパーク |
| 244 | 山口→愛媛→島根 |
| 249 | 2021 年春 土佐清水ジオパーク→室戸ジオパーク |
| 251 | 伊豆半島 箱根 |
| 252 | 年度不明伊豆千葉阿蘇 |
| 256 | 白神→男鹿 |
| 258 | 三笠山ジオパーク十勝ジオパーク |
| 262 | 2019は故郷の山陰海岸で。2022年は息子と二人で愛媛へ |
| 263 | 箱根ジオパーク伊豆半島ジオパーク |
| 264 | 2019年春伊豆→2019年→箱根→2020年春千葉 |
| 267 | 桜島→阿蘇 |
| 275 | “2019 年三陸ジオパーク、2022 年栗駒ジオパーク、2022 年” |
| 278 | 2022 年 糸魚川同年 裏磐梯 |
| 279 | 四国西予ジオパーク 南紀熊野ジオパーク 白山手取川ジオパーク |

| | |
|-----|---------------------------------------|
| 284 | 2021年秋吉台→萩 |
| 285 | 2022年夏 土佐ジオパーク→南伊予 |
| 286 | 十勝、三笠、有珠山、 |
| 288 | 2018年秋 萩ジオパーク2019年秋 島原ジオパーク |
| 289 | 2018年春霧島ジオパーク、2018年秋桜島ジオパーク |
| 292 | 2018 阿蘇ジオパーク 2022 大分豊後大野ジオパーク |
| 295 | 2020年 秋 長野 |
| 296 | 磐梯山鳥海の順です。 |
| 301 | 2018年秋 洞爺湖 2022年秋 箱根 |
| 309 | 2022年福井恐竜パーク 和歌山白浜ジオパーク |
| 312 | 2019 兵庫 2020 島根県 |
| 313 | 2019年初夏 洞爺支笏湖ジオパーク 2020年 春 洞爺支笏湖ジオパーク |
| 321 | 秋田から岩手 |

[4] コロナ禍が落ち着いたあとに訪問したいジオパーク(n=464)

Q6 昨今、新型コロナウイルスの感染症法上の位置付けを、インフルエンザと同じ「5類」に移行するとの報道がなされています。そうなった場合、あなたが次の旅行先を検討するなかで、どのジオパークへ行きたいと考えているかをすべて教えてください。(n=464)

Q6.あなたが次の旅行先を検討するなかで、どのジオパークへ行きたいと考えているかをすべて教えてください。



■回答の特徴

Q6 では「コロナ禍が落ち着いたあとに訪問したいジオパーク」を聞いている。もともと訪問度合（下記表）が上位である「立山黒部ジオパーク」(1位)や「阿蘇ジオパーク」(2位)、箱根ジオパーク(5番目)につづいて、3番目に「南アルプスジオパーク」、4番目に「五島列島(下五島エリア)ジオパーク」、6番目には「南紀熊野ジオパーク」、7番目に「十勝岳ジオパーク」などがあがっている。

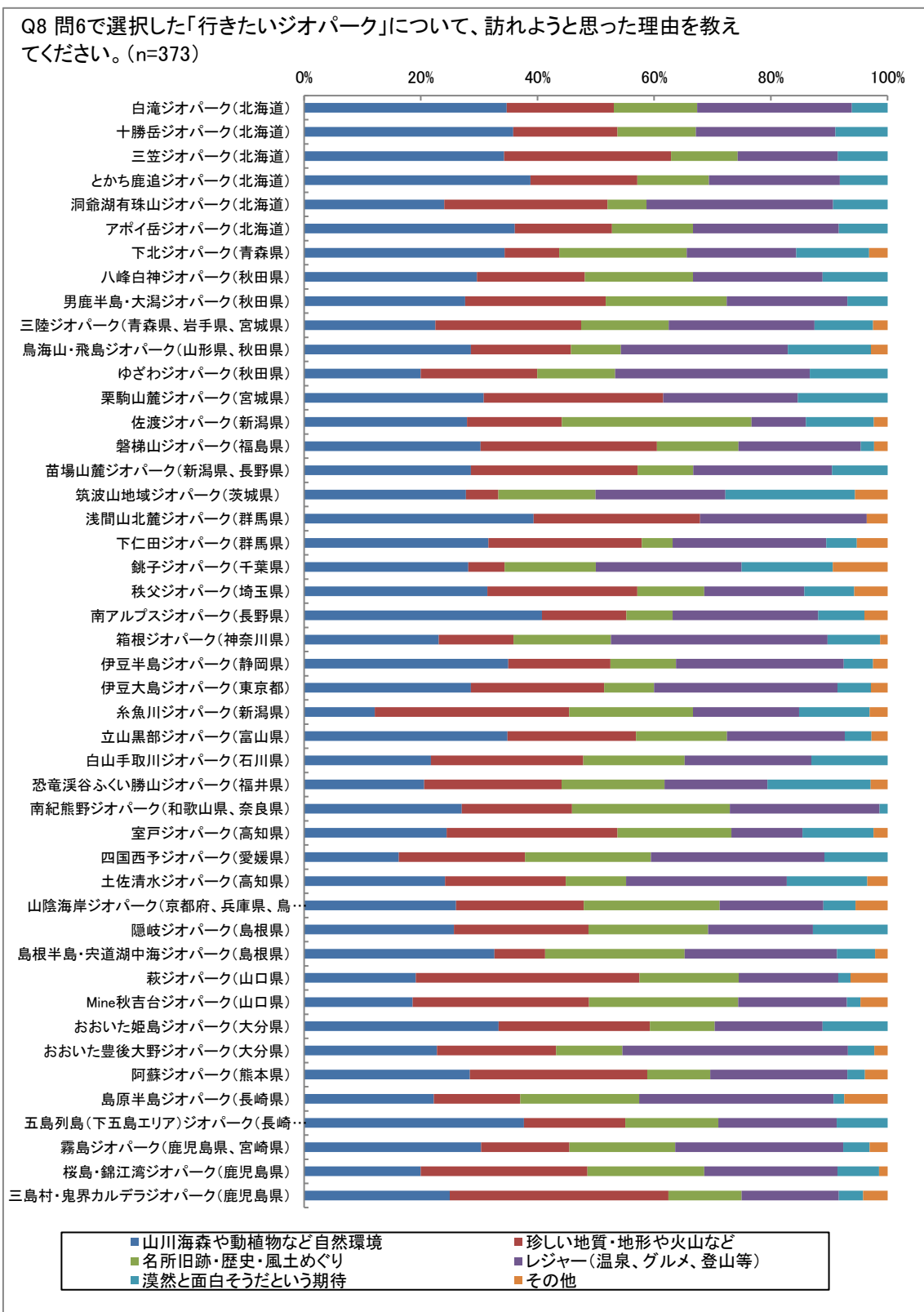
コロナ禍が落ち着いたあと、旅行先としてどのジオパークを希望するかという意味では、これまでの訪問割合よりも訪問希望が高いジオパークは、ジオパークのブランド施策に成功しているか、コロナ禍後の旅行先の選好に近いジオパークの特性を持っているといえよう。

【参考（再掲）】表：訪問度合を降順に並べた表の右に「再訪問度合（①満足し再訪問÷訪問度合）」を追加したジオパーク一覧表

| ジオパーク名 | 位 | 訪問度合 | 位 | 再訪問度合 |
|------------------------|----|------|----|-------|
| 阿蘇ジオパーク(熊本県) | 1 | 8.6% | 33 | 44.2% |
| 箱根ジオパーク(神奈川県) | 2 | 7.4% | 23 | 48.6% |
| 立山黒部ジオパーク(富山県) | 3 | 7.4% | 41 | 40.5% |
| Mine 秋吉台ジオパーク(山口県) | 4 | 7.2% | 44 | 38.9% |
| 洞爺湖有珠山ジオパーク(北海道) | 5 | 6.7% | 46 | 35.8% |
| 山陰海岸ジオパーク(京都府、兵庫県、鳥取県) | 6 | 6.5% | 30 | 46.2% |
| 伊豆半島ジオパーク(静岡県) | 7 | 6.2% | 29 | 46.8% |
| 桜島・錦江湾ジオパーク(鹿児島県) | 8 | 5.7% | 37 | 42.1% |
| 南紀熊野ジオパーク(和歌山県、奈良県) | 9 | 5.5% | 35 | 43.6% |
| 霧島ジオパーク(鹿児島県、宮崎県) | 10 | 5.4% | 32 | 44.4% |
| 島根半島・宍道湖中海ジオパーク(島根県) | 11 | 5.0% | 38 | 42.0% |
| 三陸ジオパーク(青森県、岩手県、宮城県) | 12 | 4.8% | 16 | 50.0% |
| 萩ジオパーク(山口県) | 12 | 4.8% | 42 | 39.6% |
| 島原半島ジオパーク(長崎県) | 12 | 4.8% | 34 | 43.8% |
| 室戸ジオパーク(高知県) | 15 | 4.4% | 40 | 40.9% |
| 南アルプスジオパーク(長野県) | 16 | 4.3% | 21 | 48.8% |
| 磐梯山ジオパーク(福島県) | 17 | 4.2% | 26 | 47.6% |
| 浅間山北麓ジオパーク(群馬県) | 18 | 4.2% | 31 | 45.2% |
| 男鹿半島・大湊ジオパーク(秋田県) | 19 | 4.1% | 22 | 48.8% |

| | | | | |
|------------------------|----|------|----|-------|
| 糸魚川ジオパーク(新潟県) | 19 | 4.1% | 43 | 39.0% |
| 秩父ジオパーク(埼玉県) | 21 | 4.0% | 20 | 50.0% |
| 恐竜渓谷ふくい勝山ジオパーク(福井県) | 22 | 3.9% | 36 | 43.6% |
| 筑波山地域ジオパーク(茨城県) | 23 | 3.8% | 27 | 47.4% |
| 銚子ジオパーク(千葉県) | 24 | 3.6% | 28 | 47.2% |
| 土佐清水ジオパーク(高知県) | 24 | 3.6% | 39 | 41.7% |
| 佐渡ジオパーク(新潟県) | 26 | 3.5% | 45 | 37.1% |
| 鳥海山・飛島ジオパーク(山形県、秋田県) | 27 | 3.3% | 24 | 48.5% |
| 伊豆大島ジオパーク(東京都) | 27 | 3.3% | 14 | 51.5% |
| 白山手取川ジオパーク(石川県) | 27 | 3.3% | 14 | 51.5% |
| 十勝岳ジオパーク(北海道) | 30 | 3.2% | 16 | 50.0% |
| 四国西予ジオパーク(愛媛県) | 31 | 3.1% | 13 | 51.6% |
| 隠岐ジオパーク(島根県) | 31 | 3.1% | 25 | 48.4% |
| おおいた豊後大野ジオパーク(大分県) | 33 | 3.0% | 12 | 53.3% |
| 五島列島(下五島エリア)ジオパーク(長崎県) | 34 | 2.9% | 10 | 55.2% |
| 下北ジオパーク(青森県) | 35 | 2.8% | 19 | 50.0% |
| とちぎ鹿追ジオパーク(北海道) | 36 | 2.7% | 7 | 55.6% |
| 八峰白神ジオパーク(秋田県) | 36 | 2.7% | 7 | 55.6% |
| 苗場山麓ジオパーク(新潟県、長野県) | 36 | 2.7% | 7 | 55.6% |
| 下仁田ジオパーク(群馬県) | 39 | 2.6% | 16 | 50.0% |
| アポイ岳ジオパーク(北海道) | 40 | 2.5% | 2 | 60.0% |
| ゆざわジオパーク(秋田県) | 41 | 2.5% | 5 | 56.0% |
| 栗駒山麓ジオパーク(宮城県) | 41 | 2.5% | 5 | 56.0% |
| おおいた姫島ジオパーク(大分県) | 43 | 2.3% | 4 | 56.5% |
| 三笠ジオパーク(北海道) | 44 | 2.3% | 3 | 56.5% |
| 白滝ジオパーク(北海道) | 45 | 2.2% | 11 | 54.5% |
| 三島村・鬼界カルデラジオパーク(鹿児島県) | 46 | 2.1% | 1 | 61.9% |

[5] 「行きたいジオパーク」に訪問したい理由・魅力(n=373)



■回答の特徴

Q8 では、Q6「行きたいジオパーク」を選択した 373 回答を対象に、それぞれの「行きたいジオパーク」に訪問したい理由や魅力の有無を聞いている。

なお、注意点として、それぞれのジオパークの魅力を複数選択で選ぶことができるため、このグラフの割合は本来、足し合わせても 100%になるものではない。6 種のジオ的魅力的割合を単純比較するために、横軸の 100%グラフで表現している。

例えば、青色の「山川海森や動植物など自然環境」が魅力的なのは？ 赤色の「珍しい地質・地形や火山」で選ばれているジオパークは？ 緑色の「名所旧跡・歴史・風土めぐり」や紫色の「レジャー（温泉、グルメ、登山等）」で選ばれているのはどこだろう？というときに、このグラフでの割合の違いを眺めて、特徴をとらえてほしい。

なお、水色の「漠然と面白そうだという期待」の割合が高いジオパークは、訪問者や住民に、ジオパークが持っている魅力がなんらかの理由で伝わっていない可能性がある。魅力を高めることと、魅力を伝える・伝える施策が求められてくるだろう。

[6] ジオパーク訪問による生活や行動の変化 (n=368)

Q9 ジオパークを訪れたことで、あなたの生活や行動に何か変化がありましたか？ (n=368)

■ 回答の特徴

Q9 では「ジオパーク訪問による生活や行動の変化」を聞いているが、うち有効な 122 回答を記載している。

これを見ると「感動・おそれ・日本が好きになった」や「知識面」「自然に触れたことによる人生観への影響」「自然・環境保護の意識や行動変容」「具体的なジオパークへの再訪問希望」などさまざまな変化がみられている。ジオパークが持つ魅力が伝わった訪問者も一定数いることがわかる。

その一方で、分析上、表には記載していないが「変化はなかった」とする回答が 6 割程度あったことは今後のジオパークのあり方を考えるために前提として捉えておきたい現状だと考える。

▽Q9 ジオパーク訪問による生活や行動の変化 一覧表

| No. | 回答 |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 5 | いつまでも記憶に残るいつまでも記憶に残る |
| 6 | 息抜きになった。 |
| 7 | 人間は小さい存在だと思います。 |
| 9 | 子供が喜ぶ |
| 13 | 今まで見過ごされていた新しい知識や発見を体験した |
| 14 | 自然に対する畏敬の念を抱くようになった。 |
| 15 | リフレッシュ |
| 16 | 生活環境の保護のためにゴミの分別を、より一層進めるようになった。 |
| 17 | 新しい発見 |
| 19 | 洞爺湖有珠山、銚子、箱根、伊豆半島、南紀熊野、島根半島宍道湖中海、阿蘇 各ジオパークなどを訪れて、地球の大きさ、地殻変動の力強さと複雑さ、地殻変動や火山活動など地球の息吹を人間が恐れを感じると共に美しいと感じることの不思議さがつのつた。 |
| 20 | 歴史地球その土地への興味 |
| 30 | 日本の地理や土質、自然が自分の目で確かめられてこの歳まで生きていて良かったと思われるぐらい感動があった |
| 34 | 地球に居る幸福感。 |
| 35 | 島根県に住んでいるので隠岐ジオパークが生活の一部になっている。 |
| 38 | 今ある自然を残していくために何が必要か考えることがある |
| 42 | 地質学、地球物理学への理解が深まった。 |

| | |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 54 | 普通の景観地だと思っているので、特別な変化は無い。 |
| 58 | 地球の歴史に思いをはせる事になり、いかに自分の人生がわずかであるかを思い知った。 |
| 62 | 自然を大切にしたい |
| 63 | 自然環境や、自然破壊のことを考えるよう |
| 64 | 何回も行っているのに特に変化はないが、景色が良いので癒される。リフレッシュできる。 |
| 67 | 地学・地形学に興味を持った |
| 70 | 生活や行動には影響はない |
| 75 | 環境のことを考えるようになった |
| 82 | 自然の偉大さを感じた |
| 85 | 自然や文化、歴史への興味が増した |
| 106 | 好奇心を駆り立てられる |
| 111 | 環境にやさしい生活を送ろうと思った |
| 113 | 人類を見つめ直せた |
| 115 | 豊かになった |
| 117 | 素晴らしい自然とかに見せられました。感動でしたね |
| 121 | 太古の大きさを再認識したい |
| 122 | 自然を愛する事ができた |
| 125 | 自然との共存。 |
| 126 | 今までにない日本を感じる事ができた |
| 134 | 鳥海山に登り、高山植物や雄大な展望に地球の素晴らしさを感じ、感動した。再度訪れたい。 |
| 140 | 伊豆半島に訪問して、自然の力の偉大さを感じました。 |
| 141 | 隠岐のジオパークへ行ったことで景観の美しさや自然の荘厳さを感じることに加え 日本列島やアジア大陸の成り立ち、ひいては地球の誕生について知り考える事ができた。また隠岐では竹島に関する領土問題をより身近なものとして捉える事ができた。 |
| 145 | 季節ごとに定期的に行ってみたいと思うようになった。 |
| 146 | 自然のそうだいさと環境について考えるようにぬった |
| 148 | 面白くて興味深いに変化はないと思う |
| 149 | 世界観が変わったほど |
| 150 | 環境保護について興味を持った |
| 151 | 地震や津波など自然災害の恐ろしさやすごさを感じる事ができた。 |
| 154 | 日本もいい！ |
| 155 | 自然が好きになった |
| 156 | 楽しめた、自然にふれあいいやされた |
| 162 | 新たな興味が湧くので楽しいが、1か所だけでも短時間では十分には見きれないので何度も訪問したい。 |

| | |
|-----|----------------------------------------------------------------|
| 165 | 自然に触れられた |
| 168 | 馳走の成り立ちに興味湧いた。 |
| 180 | 佐渡を訪れて、いごねりという海藻を知っておきゅうとを買って食べるようになった。 |
| 181 | より地質や地理に興味を持つようになった |
| 182 | 美祢ジオパークを訪問。特に変化はないが、自然の雄大さを改めて感じました。 |
| 183 | 自然保護 |
| 186 | 地質や地層等に興味深まった。 |
| 188 | リフレッシュできた 気分転換になった 家族との交流ができた |
| 189 | 島原半島ジオパークへ行き、環境保護について関心が高まった。 |
| 190 | 心が豊かになった |
| 192 | もっとあちこち見て回りたいと思った |
| 196 | ブラタモリが面白くて、見ています。ブラタモリの、確認ができる部分がありそうです。 |
| 199 | 日本って本当に綺麗だなと改めて思いました |
| 203 | 非常に楽しく充実感で満たされた。 |
| 208 | 阿蘇に行ったが、人が多すぎると避けてしまう。 |
| 209 | 自然がより好きになった |
| 211 | 各地域の成り立ちに興味をもった |
| 216 | ジオパークを意識しているわけではない。自分の知らない土地を訪問してみたいと言う気持ちがあり、それを実現できた喜びがあります。 |
| 217 | 地殻活動や生活関連 |
| 220 | エコ活動。自然や歴史の興味。 |
| 225 | 地球はすごいなと思った。また、普通の生活でも勾配や地形は気になるようになった。 |
| 236 | 友人との話題が増えた |
| 237 | 秩父は近いので、何回も訪問できる可能性があり、複数回訪問してもっと理解を深めたいと思った |
| 238 | 良い気分転換になった |
| 239 | 心があらわれた |
| 242 | その地域の文化に興味を持つようになった。 |
| 245 | 洞爺のジオパークで被害にあったマンションや施設、トラックをみてとても驚いた。自然とは恐ろしいものである |
| 246 | 環境保護の意識が高まった。 |
| 248 | 地層などにも興味を持った |
| 249 | アクティブに変わった |
| 255 | いろいろなジオパークを訪ねて日本の良さを再確認しました。 |
| 260 | インターネットで調べるようになった |

| | |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------|
| 263 | 少し地層に興味をもった。 |
| 273 | 自然の素晴らしさがわかる |
| 274 | また行きたいなと思った |
| 275 | 自然に触れることができた |
| 278 | 思い出になりました。 |
| 281 | 特に大きな変化はないですが、ゴミの分別や水の節約などはさらに意識するようになったかもしれません。 |
| 282 | ゆとりがでる |
| 284 | 室戸ジオパークに訪れ自然の不思議に触れて他の自然が作りだす地形に興味が出てきた。 |
| 286 | 自然環境保全 |
| 287 | 一度では回りきれないと感じるので同じところに何度かいきたいという旅の形が変わってきた。 |
| 291 | 地球の雄大さ、神秘を感じた |
| 296 | エネルギーを意識するようになった |
| 297 | 良い思い出ができました |
| 299 | ちいさな動植物に対してあたたかい思いやりや環境保護に対する意識が芽生えてくる。 |
| 304 | 自然に興味をもつようになった |
| 305 | 自然の雄大さがわかった |
| 308 | 自然に対する興味が掻き立てられます。 |
| 309 | 自然への敬愛が増した |
| 310 | 自然に興味を持った |
| 311 | 自然にふれあい心が癒された。 |
| 316 | 地理や歴史に興味を持つようになり歴史の本を読むようになった。 |
| 317 | 心が豊かになる |
| 322 | その地域の成り立ちや自然に興味を持つようになった |
| 323 | 自然保護に対して興味を持った。 |
| 324 | 温泉でくつろげる |
| 325 | 自然にふれると気分が良い |
| 326 | 生活及び生活習慣の変化はない |
| 327 | ジオパークの景観や教育、持続可能な開発は、いつまでも残して欲しいと思い、地球温暖化などから地球を守ることが重要で、ごみを出さない、分別してごみを出すなど、エコに対して考えるようになった。 |
| 329 | 狭い煮hんの国土にも雄大な自然があること屋火山活動の驚きを改めて感じる k とができた。 |
| 332 | 特にない。その旅行自体を楽しむ目的。 |
| 333 | 色々な事に興味がでてきた。 |
| 335 | 環境保護意識の高まり |

| | |
|-----|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 338 | 活力をもらった |
| 341 | 明日への活力になる |
| 342 | リフレッシュ出来た。 |
| 343 | 物事の見方を変える |
| 346 | 松江・宍道湖や隠岐を訪問した際、日常目にする風景とは異なる風景に接することで新たな知見を得られた。地域ごとの様々な文化の端々に触れられて気分もリフレッシュでき、自分が住んでいる地域の良さを再発見することもできた。コロナが落ち着いたら、過去訪問したジオパークをぜひ再訪したいと思っている。 |
| 348 | 特別変化はないが鍾乳洞や石灰岩地形は印象的でした。 |
| 351 | 特に変化はないが自然は大切に保護したい |
| 353 | 思い出がたくさん出来た。 |
| 357 | 大自然を大切にしたいという気持ちがより高まった |
| 358 | 人間の本来のあるべき姿と自然との共生の大切さを実感した |
| 368 | 心が洗われすっきりした気分になりました |

VIII. 考察

ここまで、住民や訪問者のジオパークの認知度やコロナ前後の訪問・再訪問の状況、さらに不満や改善点、ジオパーク間の周遊に向けた現状把握や周遊を促すヒントについて調査結果を紹介した。

まず、認知度調査の Q1「ジオパーク自体の認知度」は前回と比べ 0.4 ポイント増の 57.3%だった。毎年同じ指摘になり恐縮だが、地道な活動がジオパーク自体の認知や地域成果につながっている一方で、ここ最近では横ばいで、6 割に届いていない。

さらに認知拡大につなげるために、年代別の結果から、男性 20～30 代、女性 10～40 代の層への効果的なアプローチ、さらに地域別では都市圏である関東地方、近畿地方はやや認知度が低いため、こうした地域へ広くジオパークを知ってもらうための広報戦略が必要だと考える。

さらに、Q2 ではジオパーク 46 か所を対象に、「訪問の有無と満足・不満」「再訪問の有無」を聞いている。

それぞれ①「訪問して満足し再訪問」、②「訪問して満足したが再訪問してない」、③「訪問したが不満」を足し合わせた「訪問度合」(①+②+③)の結果は、「阿蘇ジオパーク(熊本県)」が 8.8%と最も多く、次に「箱根ジオパーク(神奈川県)」と「立山黒部ジオパーク(富山県)」が 7.4%で同率 2 番目、さらに「Mine 秋吉台ジオパーク(山口県)」「洞爺湖有珠山ジオパーク(北海道)」と続いた。

参考までに、訪問度合の右に「再訪問度合(①満足し再訪問÷訪問度合)」を追加したジオパーク一覧表も作成している。

おおむね「訪問度合」が高いジオパークよりも下位のジオパークが再訪問割合では上位にきているが、下位はそもそもの訪問度合の割合が低いため、あくまで参考値として示している。とはいえ、一部ジオパークは訪問度合があまり高なくても、訪問者に満足してもらうことに成功して再訪問に結び付けているジオパークもあると言える。自身のジオパークの活動を振り返り、他ジオパークの取り組みを学ぶきっかけにしてほしい。

次に、認知度調査で「訪問したうえで不満を持った」と回答した人に対して不満の理由を抽出した「不満抽出調査」を紹介する。

196 回答中、有益な 44 回答を見ると、多かったのは「案内不足、解説施設の不足、訪問したがよくわからない」といった情報発信の課題、「交通の便が悪い、駐車場が狭い、飲食店の不足」などアクセスや施設面の課題、さらに「ごみが落ちている、掃除が行き届いていない」といった環境・清掃面、一部は「子どもの遊び場」に関する不満があげられている。

こうした不満や課題が、自ジオパークで同じ状況がないかを確認や検討してほしい。

なお、ここ数年の調査報告で「不満抽出」を試みているが、一定の回答数を得ることが難しくなっている。不満を記載することを忌避する回答者の傾向や、よっぽどの不満や負の感情を持つような体験がなければ、訪問から一定期間経ったあと、こうした調査で不満を抽出するのは困難だと言わざるを得ない。本来は、訪問後にその場でアンケートやインタビューをすることで、こうした感情や改善点を拾い上げていくことも、各ジオパークの現状把握という意味では求められるだろう。

さらに、2023年5月にコロナが5類に位置づけられる見込みのなかで、新たな人流や旅行の増加を見据えてジオパーク間の周遊を促すための現状調査を実施している。

Q1ではコロナ禍のあとの訪問(青グラフ)を、Q3ではコロナ禍のまえの訪問(赤グラフ)を聞いたが、①コロナ禍により訪問割合が減少したジオパークとして「霧島ジオパーク」が2.5ポイントの減少、つづいて「Mine 秋吉台ジオパーク」「箱根ジオパーク」「下北ジオパーク」が2.0ポイント、「阿蘇ジオパーク」や「山陰海岸ジオパーク」「磐梯山ジオパーク」「とちかち鹿追ジオパーク」も影響が大きかった。

また、②コロナ禍により訪問割合が増加したジオパークとして、「秩父ジオパーク」が1.9ポイント変化している。ほかに1ポイント以上増加しているジオパークはないが、軒並み減少や変化が乏しいなかで「筑波山地域ジオパーク」「男鹿半島・大湊ジオパーク」「南アルプスジオパーク」「銚子ジオパーク」などは微増といえる。

今回、訪問割合が減少した理由や増加した理由を調査していないため推測になるが、コロナ禍により多くのジオパークが訪問割合を減少させているなかで「秩父ジオパーク」が増加させたのは、コロナ禍の中で「都市圏から近場で自然を体験できる場所」として在京テレビ局が取り上げる機会が増えたことも鑑みると、都市圏から近いという地の利を生かした結果といえるだろう。

一方、減少してしまったいくつかのジオパークの特徴として、都市圏からの距離という要因が考えられる。物理的な距離をどう乗り越えるか、訪問者の勢いをコロナ禍以前にどう戻すかも含めて様々な施策を検討してほしい。

Q2では「2021～2022年中に直接訪問したことがあるジオパークの訪問順」を聞いている。うち、有効な118回答を①近隣での周遊とみられる訪問順、②近隣での周遊と遠隔地を含む訪問順、③訪問順として回答されたが時期が別などの理由で遠隔地への訪問を含む順番を表にまとめている。

これをみると、同県や近隣での周遊傾向がある程度とらえることができそうだ。訪問度合の高い「阿蘇ジオパーク」から九州内のジオパークに周遊するパターン、「箱根ジオパーク」や「伊豆半島ジオパーク」などから関東圏のジオパークに訪問するパターン、あとは「北海道内」、「中国地方内」、「四国近隣」などで周遊するパターンなどがよくみられる。

自ジオパークが、この周遊パターンに入っているかをまずは確認してほしい。そのうえで、新たな周遊パターンを創り出すためにも、既存のパターンを研究し、「自ジオパークを起点として周遊を

創り出せるか」、もしくは「途中の訪問地として自ジオパークを位置づけて周遊を促すことができるか」を新たなアイデアを使って実現してほしい。

Q5では「ここ5年間で1つの旅行での訪問順」を聞いているが、うち有効な59回答を表にまとめて記載した。

これをみると、九州地方や北海道、関東圏、四国、東北や日本海側などで、1つの旅行でジオパーク間を周遊している様子がわかる。海外では一般的であろう、中～長期的な旅行による訪問は、今回の調査では回答は1件のみであった(No.178の回答:山陰～山陽で10日間、四国～中国～京都で1週間)。日本人の旅行の期間は短いことを前提として考えるべきであろう。

また、分析上は省いているが「1つの旅行で複数のジオパークに訪問しない」「1つのジオパークのみに訪問した」との回答が約70回答あり、ジオパークの特性上、1つの旅行での周遊が可能なジオパークは限られていると考えたほうがよいだろう。

以前実施した、旅行に関する調査でも触れたが、日本人は短期間で近隣～中距離の旅行を好む傾向が強くみられる。一度の旅行の訪問先に選ばれるか、ということも検討すべきであるが、交通の便を充実させることで旅行先の選択肢に入るかどうか、周遊を促すための情報発信や近隣ジオパークとの連携の可能性を生み出せるかをぜひ考えてほしい。

Q6では「コロナ禍が落ち着いたあとに訪問したいジオパーク」を聞いている。もともと訪問先として上位である「立山黒部ジオパーク」(1位)や「阿蘇ジオパーク」(2位)、箱根ジオパーク(5番目)につづいて、3番目に「南アルプスジオパーク」、4番目に「五島列島(下五島エリア)ジオパーク」、6番目には「南紀熊野ジオパーク」、7番目に「十勝岳ジオパーク」などがあがっている。

コロナ禍が落ち着いたあと、旅行先としてどのジオパークを希望するかという意味では、これまでの訪問割合よりも訪問希望が高いジオパークは、ジオパークのブランド施策に成功しているか、コロナ禍後の旅行先の選好に近いジオパークの特性を持っているといえよう。逆に、訪問先の実績は上位であるのに、希望が振るわないジオパークもあると思う。

コロナ禍により旅行や訪問に関する意識や選好が変わった社会で、どのように自ジオパークの存在感を高めていくかを、他ジオパークとの連携も視野に入れながら魅力を高めていくべきだろう。

Q8では、Q6「行きたいジオパーク」を選択した373回答のうち、それぞれの「行きたいジオパーク」に訪問したい理由や魅力の有無を聞いている。6種のジオ的魅力的割合を単純比較するために横軸の100%グラフで表現しているので、見方には注意してほしい。

例えば、青色の「山川海森や動植物など自然環境」が魅力的なのは？ 赤色の「珍しい地質・地形や火山」で選ばれているジオパークは？ 緑色の「名所旧跡・歴史・風土めぐり」や紫色の「レジャー(温泉、グルメ、登山等)」で選ばれているのはどこだろう？というときに、このグラフでの割合の違いを眺めて、特徴をとらえることができる。水色の「漠然と面白そうだという期待」の割合が

高いジオパークは、訪問者や住民に、ジオパークが持っている魅力がなんらかの理由で伝わっていない可能性がある。魅力を高めることと、魅力を伝える・伝わる施策が求められてくるだろう。

Q9 では「ジオパーク訪問による生活や行動の変化」を聞いているが、うち有効な 122 回答を記載している。

これをみると「感動・おそれ・日本が好きになった」や「知識面」「自然に触れたことによる人生観への影響」「自然・環境保護の意識や行動変容」「具体的なジオパークへの再訪問希望」などさまざまな変化がみられている。ジオパークが持つ魅力が伝わった訪問者も一定数いることがわかる。

その一方で、分析上、表には記載していないが「変化はなかった」とする回答が 6 割程度あった。今回の周遊状況調査の対象は、基本的に訪問者だが、「変化が見られなかった」という回答が多数であったことは、今後のジオパークのあり方を考えるために前提としてとらえておきたい現状だと考える。

そもそもジオパークを目的に訪問しているかは要検討だが、本来、ジオパークが持つ様々な魅力や“力”を訪問者が受け止めることができているか、案内やガイドの存在、地質的特徴や景観の体験・経験も含めて届けられているか、ジオパーク活動の効果性・効率性を見つめなおす機会となればと思う。

今回の調査結果が、コロナ禍を超えてジオパークによる生活や行動への変化や地域成果を創出する一助になれば幸いである。

IX. 全体総括

2013年から調査報告書を作成してきた弊社であるが、これまでもジオパークの知名度向上や組織的な取り組みの醸成、地域や住民との協働による発展等について数々の提案をだしてきた。

ここで、あらためて日本のジオパークの主な課題を整理してみる。

■ジオパークを知ってもらう認知度の向上

多くの人々がジオパークについて知らないため、観光客数が伸び悩むことがある。ジオパークをもっと多くの人々に知ってもらうために、マーケティング戦略やプロモーション活動などが必要。

■持続可能な観光の実現

ジオパークに来る観光客が多くなると、その地域の自然や文化に対する負荷が増える可能性がある。ジオパークが長期的に持続可能な観光を実現するためには、環境保護や地域住民との協働など、様々な取り組みが必要。

■適切な施設やサービスの整備

ジオパークを訪れる観光客が快適に過ごせるように、適切な施設やサービスが必要。例えば、駐車場やトイレ、案内板やガイドブックなどが整備されていない場合、観光客が不便を感じる可能性がある。

■地域住民との協働

ジオパークは、その地域の自然や文化、歴史などを活かして観光を行うことを目的としている。そのため、地域住民との協働が不可欠である。地域住民がジオパークの理念に共感し、協力して取り組むことが求められる。

■持続的な運営体制の確立

ジオパークの運営には多くの費用がかかる。そのため、持続的な運営体制の確立が必要となる。例えば、地域住民や企業などからの支援や、ジオパークを利用した商品開発などが考えられる。

これらを解決していくためには、どこから・どの順番で・どのように取り組んでいけばよいか検討されている地域も少なくないだろう。なにが正解か断定することは難しいが、前述のとおり『知名度』は重要な要素であることは間違いなからう。

『知名度』が高いということは観光客が多く訪れてくれる可能性を意味している。すなわち、その地域の経済にも好影響をもたらす可能性がある。地元経済が潤ってくれば、地域に収める税金額が増えジオパーク整備の予算にも反映できるだろう。また、地元で商売が成り立てば商工産業が盛んになり人口減少抑制にもつながる可能性がある。外からの評価が上がると地元の人々の誇りも増幅されそう。理想通りにはいかないかもしれないが『知名度』の向上がもたらす好影響は大きいのではないだろうか。

『知名度』を向上できる要素はジオパークそのものの知名度だけではない。

例えば、ジオパークの保全やガイド活動などを通じて住民が協働して地域活動を活性化すれば「住民自治」のモデルケースとして注目を浴び知名度が向上するだろう。

子供達へのアイデンティティの向上を目指した学校教育に工夫がみられると、それが先進事例として注目され、全国から多くの人々が訪れるだろう。

これらのように、様々な分野でジオパークを核にした取り組みを考えてみれば幾通りの方法が考えられる。

しかし、こういう状況を作り出すためには役所内の「縦割り文化」の打破が不可欠である。ジオパークについてはジオパークの担当課・担当職員が取り組み、他の職員は無関心。DXについても担当課や担当職員は一生懸命取り組むが他の職員にとっては他人事になってはいないだろうか？

こういう縦割り組織に横串を入れていくのは職員自らであるが、まずは首長ならびに副首長のリーダーシップが必要である。首長はじめ副首長の経営層が、役所の中に体制を構築し、役所外の企業や住民とのコラボレーションを丁寧に作っていくほかない。

地域経営の執行権者としての責任を、首長・副首長は再確認する必要があるのではないだろうか。

以上

2023年2月28日

一般社団法人地域経営推進センター

代表理事 中村 健

青木 佑一